

# 平成23年度 第2回 石狩市地場企業等活性化審議会

日時 8月26日(金)13:00～15:00

場所 石狩市役所3階 庁議室

## 次 第

### 1. 開 会

会長挨拶

### 2. 議 事

- (1) 各団体等による課題等の概要説明
- (2) 石狩市地場企業等活性化計画(第3次計画) 審議
  - I. 第3次地場企業等活性化計画の策定に当たって
  - II. 本市地場企業等を取り巻く社会経済環境の状況
  - III. 地場企業等の現状と課題
  - IV. 石狩市地場企業等活性化の基本方向に向けての方針
    1. 地場企業等育成と産業技術の開発促進
    2. 人材育成と確保

### 3. その他

### 4. 閉会

# 座 席 表

《第2委員会室》

《事務局》  
主任  
田原

副会長  
後藤 正和  
(ごとう まさかず)

会 長  
北山 隼  
(きたやま たかし)

委 員  
松尾 拓也  
(まつお たくや)

委 員  
和田 郁夫  
(わだ いくお)

委 員  
岡林 位和  
(おかばやし のりかず)

委 員  
大江 徹  
(おおえ とおる)

委 員  
有田 祐司  
(ありた ゆうじ)

委 員  
荒関 淳一  
(あらげき じゅんいち)

委 員  
瀬尾 英幸  
(せお ひでゆき)

(傍聴者・報道関係者席)

《事務局》  
主査  
高石

《事務局》  
課長  
武田 渉

《事務局》  
部長  
佐々木 隆哉

《事務局》  
主査  
中村

《事務局》  
主査  
永塚

《事務局》  
主査  
巴

出入口

(関係者席)

## ・第 3 次地場企業等活性化計画の策定に当たって

### 1 . 地場産業と地場企業等活性化計画の改定の意義・経緯

石狩市は、古くから「鮭」「にしん」に代表される漁業と多様な農業を基幹産業として発展してきた歴史を有すると同時に、現在は 600 社以上が操業する石狩湾新港地域を核として、一次、二次、三次産業のバランスが取れたまちである。こうした恵まれた条件を十二分に生かすことができれば、さらに強固な産業基盤構築への期待が大きく膨らむと考えられる。こうしたことから、平成 11 年 4 月に、地場産財の開発・普及等及び市内における取引関係の強化拡大を通して市内産業の高度化及び多様化、さらには本市経済の自立性向上を図る「石狩市地場企業等活性化条例」を施行した。

地場企業等活性化計画は、当該条例第 3 条に基づき、条例の目的に即した施策を総合的かつ計画的に推進する目的で策定するものである。第 1 次計画は、途中 1 回の改定を経て、平成 11 年度から 16 年度までを計画期間としてきており、第 2 次計画は市村合併や第 4 期市総合計画の策定などに加え、平成 20 年 1 月 31 日付けの石狩市地場企業等活性化審議会答申、さらにその後の経済環境の大きな変化等を踏まえ、平成 21 年 6 月から平成 23 年度までとしてきた。本計画は、第 2 次計画をベースに、東日本大震災後の経済や国際金融市場の動向を踏まえ、本市産業の現状と課題、さらに今後の産業育成に関する施策展開の方向性を示すものである。

### 2 . 地場企業等活性化計画の位置づけ

本計画は、石狩市第 4 期総合計画（産業分野目標：元気で活力あるまち）の第一次産業から第三次産業までの全産業分野振興における下位計画として位置付けられ、他の個別の産業振興計画との連携・調整を図りながら推進するものである。このため、既に振興計画が策定されている第一次産業と観光振興において取り扱う領域は、他産業との連携の推進に関するテーマとする。

### 3 . 第 2 次地場企業等活性化計画の計画期間

本計画は、めまぐるしく変動する経済動向を的確に踏まえる必要があるため長期の計画としては馴染まないことや、本市の第 4 期総合計画の計画期間(前期：平成 19 年度～23 年度、後期：平成 24 年度～28 年度)を考慮し、計画期間は平成 24 年度から平成 28 年度までとする。

第 4 期石狩市総合計画の施策体系

将来像	5つのめざすまちのテーマ	施策項目
<b>あい風と人間<small>ひと</small>が輝く活力のまち・石狩</b>	「安全・安心・快適なまち」	道路網の整備 除排雪対策の充実 公共交通環境の充実 情報通信網の整備 上・下水道の整備 住宅・住環境の整備 消防・防災体制の充実 生活安全・交通安全対策の充実 消費者対策の推進
	「健康でしあわせに暮らすまち」	保健・医療の充実 高齢者福祉の充実 子育て支援の充実 障がい者福祉の充実 地域福祉の充実 社会保障の充実
	「元気で活力あるまち」	農林業の振興 水産業の振興 商工業の振興と創業・起業の促進 観光の振興 石狩湾新港地域の振興 雇用・勤労者対策の推進
	「豊かな自然を守り育て活かすまち」	環境施策の推進 公園・緑地・水辺の整備 資源循環型社会都市形成の実現 景観づくりの推進
	「心豊かに学びいきいきと活動するまち」	生涯学習の推進 学校教育の充実 青少年の健全育成 芸術・文化の振興 スポーツ・レクリエーションの振興 国内・国際交流の推進

  
**3つの原則**

<b>原則 1</b> 「健全な行財政運営」 財政基盤の強化 行政経営の改善 広域行政の適切な活用	<b>原則 2</b> 「一人ひとりが主人公」 まちづくりへの市民参画・協働 情報公開と情報共有の推進 男女共同参画の推進と人権の尊重	<b>原則 3</b> 「地域の輝きを大切に」 個性ある地域の発展 コミュニティ活動の維持・強化 適切・計画的な土地利用
---	---	--

## ・本市地場企業等を取り巻く社会経済環境の状況

この章では、今後、本市地場企業等の活性化を進めるに当たり踏まえる必要がある今日の社会経済環境の状況について要約する。

### 1．実感の薄い景気拡大から急激な景気後退へ

近年、世界経済は、貿易や投資の自由化や情報通信技術の発展などにより、国際的なヒト・モノ・カネ・情報の流通が活発化・高速化し、経済活動のグローバル化が進んでいる。

こうした中で、我が国経済はバブル崩壊後の低迷を脱し、アメリカやアジア諸国向けの輸出にけん引される形で、2002年（平成14年）2月から69カ月間にわたり、戦後最長となる景気拡大を続けた。しかしこうした動きは大企業・製造業・輸出型産業が中心であり、公共事業への依存度が高く輸出型大企業の集積が薄い本道などの地域は、公共投資抑制のマイナス影響をカバーしきれずに景気回復から立ち遅れ、地域間格差の拡大を招いた。

いっぽう、アジア諸国の経済成長やアメリカのバイオ燃料増産の動きは、資源市場に世界的な投機資金の流入を招き、2008年（平成20年）前半には原油・原材料価格が記録的な急騰を見せ、企業収益を圧迫した。さらにサブプライム問題を契機としたアメリカ経済減速の影響も重なり、景気が停滞色を強めていたところへアメリカを震源地とする世界金融危機が襲い、円高と内外需要の減少が急ピッチで進んだ結果、我が国は、現在急激な景気の後退に見舞われた。そのような中、我が国は、東日本大震災および福島第一原発事故の影響により、さらなる困難に直面することとなった。

これからの国内復興需要とエネルギー政策転換により景気の持ち直し傾向が続くことが期待されるが、電力供給の制限や国内外への原子力災害の影響により景気の自律的回復には至っていない。グローバル化の進んだ現在、世界経済の回復がなければ我が国経済の復調は考えにくい。マクロ的には為替レート・株価の変動など国際金融市場の安定と、一層の国際間取引拡大に向けた国際協調を進めると同時に、国内需要の持続的な回復を図ることが当面の課題であるが、地域レベルでは企業倒産や失業の増加を食い止めつつ、農林水産業や中小企業が連携した新たな展開や、石狩湾新港地域の活性化により地域の活力を高めていくことが求められている。

### 2．地場企業等活性化に向けての視点

世界にも類のない急速な少子高齢化と人口減少が進む我が国は、これまでのような潤沢な生産年齢人口に支えられた「規模の経済」から脱却し、高齢者や女性など潜在的労働力の顕在化、生産性の向上、サービス産業の革新、産業の高付加価値化と産業構造の転換などを進めると同時に、地域の活性化によって国全体の生産性を押し上げ、新たな雇用や需要を創出することが必要とされている。こうした視点から本市の地場企業等活性化を展望したときに着目すべきいくつかのポイントを挙げる。

#### （1）新たなネットワーク形成の推進

地場企業等の活躍により本市の活性化を進めていくためには、地産地消型の農商工連携により、本市の特色ともいえるバラエティ豊かな農水産品を生かして新たな商品やサービスを開発することが考えられる。また、地理的にも歴史的にも多様な側面を持つ本市には、石狩鍋を始めとして有名無名のさまざまな地域資源が存在するが、それらを活用して新たな商品やサービスを開発することも考えられる。こうした取組みに当たっては、近年その経済波及効果の大きさが注目を集め、本市も積極的に推進している観光振興施策との有機的連携や、ピンクの発泡酒の開発などで既に本市でも実績を残している産学連携などの視点を組み込むことも大切である。

以上のように、今日、条例が掲げている「市内における取引関係」の強化拡大により地場企業等の活性化を進めるためには、企業、産業、資源の枠を超えた新しい連携（ネットワーク）の構築を市内で進めていく必要があるが、こうしたネットワークが拡大充実する過程では、石狩市のエリアを越えて広がる性質があることに留意すべきである。条例が目的としている地場企業等の活性化を図るためには、この「ネットワークの正常進化」にも目配りが必要であり、例えば市外に販路や取引先を求めようとする動きへの支援も検討課題となる。

#### （２）地域密着型ビジネスの展開

地域社会の高齢化や女性の社会進出が今後ますます進む中、介護・福祉・子育て支援や地域コミュニティの再生強化など、地域密着型サービスのニーズが高まることが予想される。また、こうしたニーズに対応したサービスが適切に提供されることは、高齢者や女性の社会進出を促進する効果も期待できる。これまでこうした分野については、主に行政や公益法人がサービスを提供してきたが、今後はNPOや商店街など多様な主体がビジネスとして担うことが期待されており、こうした主体の育成やテイクオフへの支援などへの検討が求められる。

また、昭和50年前後を中心に住宅が急増した本市にあっては、耐震化や省エネ化を含む住宅リフォームや住み替えなどの需要も高まるものと考えられる。典型的な地域密着型ビジネスともいえる建設業がこうしたニーズを掘り起こすことが期待されるとともに、公共事業総量の大幅回復が困難ななか、公共事業量の平準化や地域密着型の新分野への進出を支援するなどして、地域生活の安心安全の基盤を支えていく必要がある。

#### （３）資金調達の円滑化

地域で圧倒的な多数を占める中小零細の事業者は資金調達力が弱い傾向にあり、起業などのケースでは特にその傾向が顕著である。加えて、原油・原材料価格の高騰や景気変動など今日の急激な環境変化の影響を受けて資金繰りに苦しむ事業者も多い。近年、こうした面をカバーするため、国や北海道、民間金融機関などがさまざまな資金を用意しているが、地域においてもこうした動きと適切な役割分担を踏まえつつ連動して、中小零細企業等が円滑に資金調達できるような環境を整備していくことが望ましい。

## ．地場企業等の現状と課題

### 1．地場産業構造

かつて本市においては、水産加工、製材、造船等の地場資源型工業が一部見られたものの、農業と漁業の第一次産業が基幹産業の位置を占めていた。

しかし、隣接する札幌市の急激な発展の影響を受けて、昭和 30 年代後半から始まった民間デベロッパーなどによる大型住宅団地の造成や、昭和 48 年からスタートした石狩湾新港の建設とその背後約 3,000ha におよぶ工業・流通団地の開発の進展とともに本市の都市化が本格化した。

平成 17 年 10 月、石狩市は厚田村・浜益村と合併したが、地場産業の構成としては、第一次産業以外では変化が少なかった。

国勢調査から本市の就業人口を見ると、昭和 40 年の 4,139 人が、平成 17 年には合併による増加を含めて 28,314 人と約 6.8 倍に増加した。産業別シェアで見ると、昭和 40 年には第一次産業 64.9%、第三次産業 23.1%、第二次産業 12.0%の順となっていたが、平成 17 年には第三次産業 67.1%、第二次産業 25.1%、第一次産業 5.2%の順となり、ここ 40 数年余りで本市の産業構造は第一次産業中心から第二次、第三次産業中心へと変貌したことがわかる。

表 1 - 1 就業人口の推移

(人、%)

区分	昭和 40 年		昭和 55 年		平成 7 年		平成 12 年 (厚田村、浜益村)		平成 17 年		平成 22 年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
総人口	8,522		33,599		52,209		54,567 (5,167)		60,104		59,443	
就業人口	4,139		14,007		24,665		26,111 (2,596)		28,314		28,109	
就業率	48.6		41.7		47.2		47.9 (50.2)		47.1		47.3	
産業別	第一次産業	2,687 64.9	1,213 8.7	899 3.6	878 (713)	3.4 (27.5)	1,463 5.2	1,610 5.2				
	第二次産業	496 12.0	3,912 27.9	7,295 29.6	7,142 (674)	27.4 (26.0)	7,105 25.1	7,700 24.9				
	第三次産業	956 23.1	8,873 63.3	16,275 66.0	17,391 (1,209)	66.6 (46.5)	19,008 67.1	21,646 69.9				

資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）産業別には産業分別不能を含んでいない

・平成 12 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計

- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている
- ・平成 22 年は総人口のみ人口速報集計(2011 年 2 月 25 日公表)。網掛け部分は推計値

また、市内の事業所は、平成 21 年の経済センサスによると総数 2,427 事業所、従業者数 28,109 人であり、産業別で見ると、第三次産業（公務除く）が 1,759 事業所（72.5%）、第二次産業が 621 事業所（25.6%）、第一次産業が 22 事業所（0.9%）の順となっている。平成 18 年と比較すると、事業所数及び従業者数は堅調に増加している。

表 1 - 2 事業所・従業者の推移

(単位: 所、人)

区 分	平成 8 年		平成 13 年 (厚田村・浜益村)		平成 18 年		平成 21 年		
	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	
総 数	1,733	21,444	1,821 (271)	23,144 (1,761)	2,082	25,525	2,427	28,109	
農 林 水 産 業	9	100	8 (7)	112 (37)	14	157	22	401	
第 二 次 産 業	鉱 業	1	8	1 (3)	8 (34)	2	11	2	14
	建 設 業	288	2,691	280 (29)	2,589 (289)	289	2,561	388	2,682
	製 造 業	190	4,291	204 (8)	4,520 (64)	202	4,579	231	4,562
	小 計	479	6,990	485 (40)	7,117 (387)	493	7,151	621	7,258
第 三 次 産 業	電 気・ガ ス・ 熱供給・水道業	5	188	5 (3)	109 (9)	4	88	3	72
	情 報 通 信 業	102	2,768	137 (13)	3,731 (95)	14	296	17	144
	運 輸 業			141	3,897	186	5,375		
	卸 売・小 売 業	622	6,262	622 (93)	6,197 (319)	480	5,096	535	5,455
	飲 食 店、宿 泊 業			195	988	235	1,160		
	金 融・保 険 業	22	167	22 (2)	175 (6)	25	166	32	204
	不 動 産 業	16	117	19 (0)	75 (0)	16	63	55	324
業 入	ビ 医療、福祉	464	4,413	508 (98)	5,029 (728)	148	2,264	155	2,459
	教育、学習支援業			88	1,016	84	995		

	複合サービス業					33	390	26	243
	学術研究, 専門・ 技術サービス業							60	360
	生活関連サービ ス業・娯楽業					406	3,366	197	1,758
	サービス業 (他に分類なし)							174	1,315
	公 務	14	509	15 (15)	599 (180)	25	587	25	586
	小 計	1,245	14,354	1,328 (224)	15,915 (1,367)	1,575	18,217	1,784	20,450

資料：事業所統計（平成 3 年迄 7 月 1 日現在）

事業所・企業統計調査（平成 8 年以降平成 18 年迄 10 月 1 日現在、本調査 5 年毎）

経済センサス（平成 21 年以降 7 月 1 日現在 3 年毎）

・平成 13 年の上段：石狩市、下段：（厚田村、浜益村）の合計

・平成 18 年は 3 市村の合併により合算されている

・産業分類項目に変更がある

## 2. 第一次産業の現状と課題

### (1) 農 業

#### ア. 現 状

本市の農業は、都市的開発の進行、就農者の高齢化及び後継者不足により、農家戸数は年々減少しており、平成 22 年には 528 戸と、5 年前の調査に比べ 83 戸（13.6%）の減少となった。

平成 22 年における主要農作物の作付面積は約 3,277ha で、このうち基幹作物である水稲については約 1,442ha を占めるものの平成 7 年 11 月施行の新食糧法施行以来、米価の市場原理導入などと相俟って米価は下落しており、「米」を取り巻く環境は厳しさを増している。

畑作に関しては、麦類の作付面積が増加しているものの、農業産出額においては、輸入野菜や国内産地間競争の影響から価格は低迷し、水稲と同様厳しい状況が続いている。

このような農業の諸問題や新たな情勢に即応するため、平成 12 年に石狩市・石狩市農業協同組合・石狩市農業委員会の三者が「石狩市農業総合支援センター」を設立し、新たな地域農業システムの構築を進めている。

一方、地産地消の取組みとしては、野菜直売所「JA いしかり地物市場とれのさと」が樽川地区で平成 23 年度にリニューアルオープンし、直売の他、アンテナショップ、地産地消に携わる人材育成などを行っており本市市民のみならず札幌市民にも利用されている。また、「JA いしかりまるしゅ便」が平成 22 年に始まり、市内を巡回し好評を得ている。その他の直売所としては、社団法人石狩観光協会の「石狩市観光センター」、民間事

業者による「来い来い番屋の生鮮広場」、「望来コミュニティーセンターパークゴルフ場販売所」、「浜益温泉直売所」、市内・近郊量販店でのインショップ、生産者直営の直売所などにおいて市民に新鮮な野菜などが提供されている。

高付加価値加工品としては、石狩産米を原料とした地酒や地ビール、石狩産そばやシソを活用した発泡酒などのほか、果樹やトマトをジュース・ジャムなどに加工するなど、地場農産物を原料とする製品開発が進められている。

畜産業では、平成 18 年度の北海道枝肉共励会にて浜益区内で生産された「黒毛和種牛」が格付等級(A5)の成績で最優秀賞に輝き、地道な努力に評価を得ている。

表 2 - 1 専業・兼業別農家戸数の推移

(単位:戸、%)

区分	総数	自給的農家		専業農家		第一種兼業農家		第二種兼業農家	
		実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
昭和 60 年	575	-	-	234	40.7	109	19.0	232	40.3
平成 2 年	516	-	-	174	33.7	147	28.5	195	37.8
平成 7 年	447	-	-	151	33.8	134	30.0	162	36.2
平成 12 年 (厚田村・浜益村)	391 (381)	47 (86)	12.0 (22.6)	130 (98)	33.3 (25.7)	119 (105)	30.4 (27.6)	95 (92)	24.3 (24.1)
平成 17 年	611	118	19.3	198	32.4	175	28.7	120	19.7
平成 22 年	528	120	22.7	237	44.9	90	17.1	81	15.3

資料：農業センサス

経営耕地面積が 30a 未満、農産物販売金額 50 万円未満の農家を指し、専業、兼業農家といった販売農家以外を言い、平成 12 年より集計をする

- ・平成 12 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 2 主要農作物の作付面積の推移

(単位:ha)

区分	水稻	麦類	いも類	豆類	野菜	果樹	工芸作物	飼料作物
平成 14 年	711	657	138	95	299	-	3	351
平成 16 年	688	731	135	57	291	-	7	474
平成 17 年	1,494	895	167	80	325	8	99	453
平成 18 年	1,467	796	132	58	296	8	100	440
平成 19 年	1,466	741	133	29	295	8	93	517
平成 20 年	1,450	776	150	41	329	8	83	644
平成 21 年	1,443	812	134	34	339	8	87	705
平成 22 年	1,442	852	144	34	333	8	78	386

資料：石狩市企画経済部農林水産課

- ・平成 14, 16 年は旧石狩市
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 3 農業取扱高の推移

(単位：百万円)

区分	米	麦類	いも類	豆類	野菜	果樹	工芸作物	飼料作物	畜産
平成 14 年	637	331	168	47	1,112	-	2	18	201
平成 16 年	546	386	180	19	1,074	-	8	20	237
平成 17 年	1,101	467	199	21	1,087	6	78	20	357
平成 18 年	989	383	180	11	1,224	2	76	20	399
平成 19 年	965	138	158	14	1,264	3	32	22	359
平成 20 年	1,137	91	181	20	1,416	1	35	25	316
平成 21 年	980	110	272	13	1,314	1	31	9	48
平成 22 年	948	114	305	6	1,253	2	19	8	48

資料：石狩市企画経済部農林水産課

・平成 14 年・16 年は旧石狩市

・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

・「畜産」は、平成 14～20 年までは、生乳および和牛の取扱高。平成 21 年以降は和牛のみ。

## 市内農産物直売所の状況

主な販売品目 6月～8月：アスパラ、きゅうり、ナス、ニラ、イチゴ、メロン等

9月～11月：馬鈴薯、ニンジン、ピーマン、ゴボウ、長いも等

通 年：ほうれん草、大根、キャベツ、レタス等

表 2 - 4 いしかり地物市場（石狩市樽川）

区分	平成10年	平成12年	平成15年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
開設期間	6/21～11/22	6/17～11/12	6/23～11/23	5/17～11/26	5/17～11/23	5/9～11/30	4/24～11/30
開設時間	9:00～16:00	9:00～16:00	9:00～12:00	9:00～15:00	9:00～15:00	9:00～15:00	9:00～17:00
開設日	土・日曜日	月曜日以外	月曜日以外	無休	無休	無休	無休
販売額	274万5千円	973万円	796万4千円	2,181万4千円	2,919万7千円	4,282万2千円	6,585万1千円

資料：JA いしかり

JA いしかり花畔倉庫において開設

表 2 - 5 その他の直売所

直売所名	石狩観光センター	来い来い番屋の生鮮広場	望来パークゴルフ場販売所	浜益温泉直売所
開設期間	通年	3/20～12/14	5/中～10/下	4/下～10/下
開設時間	9:00～18:00	8:00～14:00	10:00～15:00	11:30～17:00

開設日		無休	水～日曜日	無休	土日祝祭日
販売額	平成 20 年度	197 万 6 千円	44 万 1 千円	-	-
	平成 21 年度	424 万 4 千円	-	-	-
	平成 22 年度	367 万 5 千円	-	-	-

資料：石狩市企画経済部農林水産課・商工労働観光課

## イ．課 題

本市の農業は、就農者の減少や高齢化、後継者不足、農産物の輸入自由化による価格競争などから厳しい経営が続き、今後とも農家戸数は減少し、担い手不足の深刻化、遊休農地の増加、兼業化や農業生産基盤の脆弱化傾向が進行していくことが予測される。

このような状況から、施設野菜や花き等の集約作物など複合経営の導入、消費者ニーズに応えた高品質の農畜産物の生産などを図ることなどが課題となっている。

また、高付加価値加工品の製品開発や石狩産ブランドの確立など、他地域で生産される農畜産物との差別化と知名度の向上が課題となっており、そのためには市場調査や技術水準の向上が不可欠であり、行政の支援体制や、農協など関係団体等とのより強い連携が必要である。

## ( 2 ) 漁 業

### ア．現 状

本市の漁業は、魚種別生産量では、鮭を中心にした魚類が最も多く全体の半数を占め、次いで貝類(ホタテ稚貝・半成貝を含む)、水産動物(タコ、シャコ、ナマコ等)の順となっており、また、生産額においても同じく魚類が最も多くなっている。

平成 16 年 1 月に、3 市村の漁業協同組合が合併し、新たに「石狩湾漁業協同組合」として発足した。

本市の漁業を取り巻く環境は、沿岸漁業中心で、漁業資源の減少、輸入水産物激増などによる魚価の低迷、漁業従事者の高齢化や後継者及び若年労働力の不足などにより厳しい状況となっている。

このような中、石狩湾漁業協同組合では、札幌圏に位置するという強みを生かして、石狩産の水産物がさらに多く、さらに市場価値を高められるような取組や、鮭、ニシンなどの栽培漁業による資源の確保など漁獲量の安定と向上を図ることで、漁業経営の安定に向けた取り組みを実施している。

また、市内 3ヶ所の朝市を活用して地元水産物の消費拡大や、売上げの増加を見込んでいる。

表 2 - 6 漁家戸数の推移

( 戸、% )

区 分	漁家戸数	専 業		兼 業		組 合 員 準
平成 7 年	66	65	98.5	1	1.5	64 2
平成 12 年	53	52	98.1	1	1.9	52 1
平成 16 年 (厚田・浜益村)	59 (100)	58 (95)	98.3 (95.0)	1 (5)	1.7 (5.0)	58 1 (98 2 )
平成 17 年	158	152	96.2	6	3.8	156 2
平成 18 年	156	150	96.2	6	3.8	154 2
平成 19 年	163	157	96.3	6	3.7	161 2
平成 20 年	158	153	96.8	5	3.2	156 2
平成 21 年	148	143	96.6	5	3.4	146 2
平成 22 年	142	137	96.5	5	3.5	140 2

資料：石狩湾漁業協同組合、平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている 法人含む  
 ・平成 16 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計

表 2 - 7 主要漁業生産量及び生産高の推移

(単位：トン、千円)

区分	平成 19 年		平成 20 年		平成 21 年		平成 22 年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
サ ケ	968	368,639	606	271,219	854	318,056	864	282,572
ニ シ ン	760	380,562	567	282,696	1,242	552,645	1,036	366,123
タ コ	146	76,662	150	78,292	163	80,816	121	53,320
カ レ イ	132	46,678	143	50,125	104	34,079	170	45,847
ナ マ コ	93	252,320	94	261,793	79	233,156	61	254,158
ヒ ラ メ	50	59,750	52	57,976	48	44,033	57	51,615
ハ タ ハ タ	22	13,385	101	58,468	31	14,594	41	23,555
シ ャ コ	39	54,178	37	56,458	38	53,648	19	38,380
ソ イ	27	17,960	32	19,285	13	6,912	8	3,607
カ ス ベ	17	6,960	16	8,980	13	7,221	19	11,519
イ カ	15	7,576	3	1,458	10	4,872	17	7,558
ウ ニ	4	32,243	10	46,797	6	24,561	13	15,127
その他の魚類	102	43,623	43	25,739	47	16,159	90	19,868
ホ タ テ	1,260	368,116	1,355	394,951	1,041	311,068	1,198	309,024
ホ ッ キ	98	33,896	88	30,402	86	26,602	79	25,778
その他の貝類	3	13,479	3	9,073	4	7,049	15	6,984

昆布類	7	8,615	11	12,701	8	8,198	4	4,277
ワカサギ	61	16,910	71	24,831	124	39,434	60	20,914
その他			0	155	0	53	0	74
合計	3,821	1,819,435	3,382	1,691,399	3,911	1,783,156	3,872	1,540,300

資料：石狩湾漁業協同組合

・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 8 石狩湾漁業協同組合朝市（直売）データ

(kg、千円)

	朝市データ		直売データ					
年度	平成 14 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 22 年度	
地区	石狩		石狩 (厚田)		石狩、厚田		石狩、厚田、浜益	
期間	4 / 6 ~ 7 / 7		通年		通年		地区により異なる	
時間	6 時 ~ 14 時		-		-		地区により異なる	
売上	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
		63,633	29,328	56,493 (151,291)	28,557 (82,878)	128,091	72,656	202,671

資料：石狩湾漁業協同組合

・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

平成 16 年度以降朝市としての集計なし

## イ．課題

水産物は、食糧供給において重要な役割を果たしており、漁業の持続的発展は今後とも不可欠である。

しかしながら、農業同様、漁業においても就業者の高齢化や後継者不足が深刻な問題となっており、平成 23 年度に組合員の減少の激しい浜益地区に農漁業従事者専用住宅を整備したものの、輸入水産物の増加、漁業資源の減少、燃油価格の高騰なども相まって、経営は一段と厳しさを増している。これら諸問題を解決するための課題として、意欲的な漁業後継者の育成、水産資源のブランド化への取り組み、「つくり育てる」水産業の確立を図るための漁場環境整備、漁業活動の生産基盤の整備及びトド被害対策など、関係機関との連携を図る必要がある。

## 3．第二次産業の現状と課題

## (1) 製造業

## ア．現状

本市の企業誘致は、昭和 40 年の民間による石狩工業団地の造成以降本格化した。現在は、「第 3 期北海道総合開発計画」を受け昭和 51 年から工業・流通地区の開発が進めら

れた石狩湾新港地域が本市の工業の発展を牽引している。

石狩湾新港地域は、札幌市に隣接しているという地理的優位性を生かしながら、道内最大級の工業団地として企業集積を誇り、物流センターや港湾地区への石油製品の貯蔵・出荷施設など、札幌圏の市民生活を支える食料品やエネルギーの供給基地として関連企業の立地が進んでいるほか、機械・金属関連や住宅・建設関連、物流関連及び環境・リサイクル関連の企業立地が進んでいる。平成 23 年 6 月末現在、石狩市・小樽市合わせて 739 社が立地し、611 社が操業しており、港湾の取扱貨物量は平成 19 年をピークに減少傾向となったものの平成 22 年度は前年度を上回っており、石狩湾新港地域は税収や雇用などで本市の経済を支える基盤となっている。

表 3 - 1 石狩湾新港地域立地企業一覧

平成 23 年 6 月末現在						
区 分	立 地 企 業			操 業 企 業		
			延べ社数			延べ社数
工 業 地 区	447 社	3 組合	496 社	344 社	3 組合	393 社
住宅関連地区	254 社	1 組合	267 社	201 社	1 組合	214 社
建設関連地区	91 社		91 社	64 社		64 社
機械金属関連地区	37 社	2 組合	73 社	35 社	2 組合	71 社
生活関連地区	58 社		58 社	37 社		37 社
先端技術関連地区	1 社		1 社	1 社		1 社
ユティリティ-地区	6 社		6 社	6 社		6 社
流 通 関 連 地 区	120 社	2 組合	214 社	98 社	2 組合	192 社
管 理 支 援 地 区	12 社		12 社	10 社		10 社
管理業務地区	7 社		7 社	6 社		6 社
産業支援地区	2 社		2 社	2 社		2 社
生活支援地区	3 社		3 社	2 社		2 社
港 湾 地 区	7 社	2 組合	17 社	6 社	2 組合	16 社
港湾関連地区	3 社	2 組合	13 社	3 社	2 組合	13 社
中央地区	4 社		4 社	3 社		3 社
合 計	586 社	7 組合	739 社	458 社	7 組合	611 社

資料：石狩開発（株）（第 3 セクター：北海道、小樽市、石狩市）

平成 21 年の工業統計によると、市内製造業の事業所数は 136 社、従業者数は 4,400 人、出荷額は約 1,153 億 4,200 万円となっており、平成 18 年の総体数値と比較すると出荷額、従業者数は増加しているが、事業所数は減少している。業種により増減にばらつきが見られるが、食料品製造業、木材・木製品製造業には増加基調で推移し、着実な成長が見

られ、一般機械器具製造業は持ち直しの動きが見られるが、金属製品製造業は若干の減少が見られ、また家具・装備品製造業、プラスチック製品製造業は減少傾向が顕著に見受けられる。

表 3 - 2 製造業の事業所・従業員数・荷額等の推移

(単位：事業所、人、百万円)

区 分	平成 8 年			平成 12 年			平成 16 年			平成 18 年			平成 21 年		
							石 狩 市 (厚田村・浜益村)								
	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額	業 所	従 業 者	出 荷 額	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額
食料品製造業	14	614	11,111	16	950	13,925	17 (3)	1,378 (41)	29,996 (254)	21	1,305	29,720	22	1,693	38,420
飲料・たばこ・飼料製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14	-	1	12	-
繊維工業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-
衣服・その他の繊維製品製造業	2	-	-	1	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-
木材・木製品製造業	11	368	4,645	7	305	4,435	7	285	4,577	7	303	4,481	7	209	5,939
家具・装備品製造業	13	265	4,377	10	105	1,371	12	208	3,136	9	183	3,053	9	160	2,412
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	-	-	1	-	-	2	25	-	2	26	-	2	24	-
出版・印刷関連産業	3	13	103	4	98	1,637	3	110	-	4	124	4,160	2	110	-
化学工業	3	35	1,582	3	-	-	3	19	-	3	21	-	1	7	-
石油・石炭製品製造業	3	34	1,106	3	19	859	2	13	-	2	12	-	2	12	-
プラスチック製品製造業	8	415	11,034	9	325	6,116	14	358	6,497	14	348	6,953	11	284	5,316
ゴム製品製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なめし革・同製品・毛皮製造業	-	-	-	3	26	118	-	-	-	-	-	-	-	-	-
窯業・土石製品製造業	11	216	6,250	5	123	2,461	7	109	2,828	5	93	-	5	91	1,793
鉄鋼業	4	86	2,237	4	83	2,295	3	66	2,764	3	115	4,106	2	100	-
非鉄金属製造業	1	-	-	1	-	-	1	10	-	1	10	-	2	22	-
金属製品製造業	54	1,251	29,920	53	1,319	31,661	50	1,246	35,977	50	1,176	41,169	50	1,216	39,722
一般機械器具製造業	10	242	4,772	11	199	6,713	11	217	4,743	12	248	4,551	11	219	5,171
電気機械器具製造業	4	170	3,096	3	85	1,506	1	8	-	2	66	-	1	66	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電子部品・デバイス製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

輸送用機械器具製造業	1			3	72	1,500	2	45		3	53	2,304	3	57	1,063
精密機械器具製造業	1			1			1	75		1	71		-	-	-
その他製造業	5	91	2,707	6	119	2,279	5	89	2,398	4	75	2,304	4	107	1,560
合 計	149	3,968	85,354	144	3,969	79,930	142	4,275	100,639	144	4,243	109,583	136	4,400	115,342
							(3)	(41)	(254)						

資料：工業統計調査（従業員 4 人以上の事業所、各年 1 2 月末現在）は数字が秘匿されているもの

・平成 12 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計

・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

## イ．課 題

製造業を中心とした市内の第二次産業の発展には、石狩湾新港地域の優位な競争力を維持・向上させるために、経済圏を巨視的に捉え、隣接する札幌圏や北東アジア、ロシア極東地域などとの物流ネットワーク、エネルギーや生活物資の安定供給の強化を図るとともに地域特性を生かした産業の集積や環境負荷の少ない循環型産業拠点の形成が必要とされている。また、多様化する企業ニーズに対処し、地域価値を高めるため、就業者や地域利用者からは、交通インフラや商業施設等の生活関連サービスの向上など利用しやすい環境の整備が求められている。

さらに札幌市に隣接する大規模産業用地というロケーションを活かした未利用地の新たな活用方法の検討や札幌圏の地域経済を支える基盤として石狩湾新港地域の潜在能力を最大限に引き出すために近隣関係自治体との連携強化が必要とされている。

## ( 2 ) 建設業

### ア．現 状

製造業と並んで本市の第二次産業の主力となっている建設業は、石狩湾新港地域や住宅団地の開発を中心とした昭和 40 年代以降の本市の急成長と軌を一にして発展した。しかし、本市の人口の伸びの鈍化や近年の公共事業抑制、さらに建築関係法規の改正などの影響を受け、現在は極めて厳しい状況にある。

## イ．課 題

北海道の総人口減少と少子高齢化が進むなか、公共投資の縮減傾向が続くことは避けられない。こうしたことから、災害時などに対応できる工事施工能力を地域で確保することを基本としつつ、業界の再編や新分野への進出など、ソフトランディング対策が求められている。また、価格と品質による公正な競争が確保できる環境の整備や、将来を担う人材の確保・養成も急がれる。

表 3 - 3 石狩市発注工事の市内建設事業者受注状況

( 単位：千円 )

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
建築	679,974	498,972	163,816	681,749	473,919
土木	838,171	642,028	464,804	1,046,820	659,997
管工	168,275	416,763	291,838	344,107	198,591
委託	553,005	526,639	556,352	595,898	603,612
計	2,239,425	2,084,402	1,476,810	2,668,574	1,936,119

資料：石狩市建設事業協会調べ（平成 20 年度は 2 月末現在）

#### 4．第三次産業の現状と課題

##### (1) 商業

###### ア．現 状

本市の平成 19 年度の小売商店数は 316 店、従業員数 3,001 人、年間販売額 450 億 700 万円、売場面積 60,893 m<sup>2</sup>となっている。平成 16 年度と比較すると商店数を除き僅かながらも増加している。

また、経営水準を近接する札幌市、北広島市の 3 市と比較すると、1 店当たりの年間販売額は約 1 億 4,240 万円と 3 市の中で最も低く、また、市民 1 人当たりの年間販売額は約 73 万円であり、北海道平均の約 67%、小売吸引率も 0.67 とほぼ同率となっており、道内 35 市の中で行政人口が同規模の他市と比較すると、商業人口が少なく、このことは、本市に近接している札幌圏の大型商業施設が地理的優位となり、消費が流出し、その購買流出はおよそ 3 割強という高い割合となっている。

本市の小売業における販売額は、3 市村の合併により人口とともに増加した。しかしながら、近年の少子高齢化、消費者ニーズの多様化による消費構造の変化や情報技術の発展、さらに地域の商店や商店街などによる中心市街地が形成されていないこと及び連担規模が小さく集客能力に乏しいため小売吸引率が低いが、大型商業施設の進出が購買流出をくいとめていけると見られる。小売業者のうち、飲食業界の一部では地域の食資源を活用した取り組みが活性化傾向にあり、今後の展開が期待される。また、札幌市に隣接しているという地理的優位性を有する石狩湾新港地域には、物流センターや石油製品の貯蔵・出荷施設など、札幌圏の市民生活を支える卸売・運輸関係の企業が集積され、景気の後退に伴い販売額等の伸びは停滞気味であるが、今後さらなる成長が期待される。

表 4 - 1 商業の推移

(店、人、百万円、m<sup>2</sup>)

区 分		平成 11 年度	平成 14 年度	平成 16 年		平成 19 年度
				石狩市	厚田区・浜益区	
総 額	事業者数	372	393	389	63	423
	従業員数	4,324	4,495	4,404	187	4,686
	年間販売額	179,113	167,818	186,421	1,807	167,317

小売業	事業者数	256	275	264	61	316
	従業員数	2,312	2,612	2,321	181	3,001
	年間販売額	36,708	41,365	41,881	x	45,007
	売場面積	39,651	42,137	42,687	x	60,893
卸売業	事業者数	116	118	125	2	107
	従業員数	2,012	1,883	2,083	6	1,685
	年間販売額	142,405	126,462	144,540	x	122,310

資料：商業統計調査（毎年：6月1日現在）

・本調査は5年毎（本調査の2年後に簡易調査）6月1日

表4-2 小売業経営水準の比較

（人、百万円）

区分	石 狩 市			札 幌 市			北 広 島 市			北 海 道		
	H14	H16	H19	H14	H16	H19	H14	H16	H19	H14	H16	H19
1店当たり 従業者数	9.50	8.79	9.05	9.70	9.98	10.35	10.79	12.45	12.46	7.22	7.37	7.59
1店当たり 年間販売額	150.4	158.6	142.4	189.6	192.8	198.4	159.5	183.1	202.2	130.8	134.4	138.3
1人当たり 年間販売額	0.742	0.745	0.734	1.234	1.249	1.128	0.622	0.733	0.784	1.171	1.156	1.098
商業人口	35,313	36,224	40,974	1,932,552	2,008,855	1,943,679	31,311	37,997	43,629	5,699,435	5,678,328	5,606,596
小売吸引率	0.634	0.644	0.668	1.053	1.080	1.027	0.531	0.634	0.712	1.000	1.000	1.000

資料：商業統計調査（毎年6月1日現在）、住民基本台帳（毎年6月1日現在）

- ・商業人口 = 市内年間小売販売額 / 道民一人当たりの年間小売販売額
- ・道民一人当たりの年間小売販売率 = 全道年間小売販売額 / 全道住民基本台帳人口
- ・小売吸引率 = 商業人口 / 行政人口(住民基本台帳人口)

## イ. 課 題

本市の既存小売事業者は、大型商業施設の進出や購買流出により、極めて厳しい状況にあり、地域資源を生かすと共に、新たな資源、人材の発掘・育成を促進していかなければならない。また、一次産業従事者及び二次・三次産業の企業・団体の連携や異業種間交流などの情報交換を多様に展開し、地域ブランドの開発などに意欲的に取り組む必要がある。

これまで地域で蓄積された技術や人材などの資源を活用した新たなビジネスチャンスが生まれるよう事業主体の育成や創業のための支援などについても重要な課題となっている。

## (2) 観 光

## ア．現 状

本市の美しい自然や景観、豊富な食材、地域固有の文化・歴史、人などを最大限活用し、「魅力があり、観光で地域が潤うまち」を目指して、平成 18 年度に「石狩市観光振興計画」を策定した。「石狩鍋復活プロジェクト」や「あいロードプロジェクト」など、本計画に位置付けられている重点プロジェクトを中心に各種事業を展開しており、成果としてメディアへの露出の増大や旅行会社によるツアー商品化が図られるようになってきている。

また、石狩鍋のほか「いしかりバーガー」や「石狩鮭醤油らーめん」など、食を活用した新規コンテンツの開発も推進しており、メディアからの注目を集めているほか、地域の飲食店の活性化にもつながっている。

これらの食資源を活用し、札幌市内をはじめとする大規模なイベントやプロモーション事業に出展することによって、少しずつ認知度が高まり、誘客効果となっていくことが期待されている。

一方で、天候不順やレジャーの多様化などの影響により、本市の観光客のメインである海水浴場への入込が落ち込んできている。また、経営の不安定化や類似施設の乱立などもあって、温泉の集客力も下がってきており、これらをカバーする新たな資源や取り組みが求められてきている。

表 4 - 3 主な施設、イベントの観光客入込数

(単位:人)

区 分		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
旧石狩市	石狩浜海水浴場	371,850	189,400	191,440
	石狩温泉「えりの湯・番屋の宿」	191,246	165,386	113,571
	はまなすの丘(ビジターセンター)	41,774	38,409	40,484
	さけまつり	73,000	64,500	31,700
厚田区	海水浴場	29,674	34,179	23,038
	厚田公園・キャンプ場	41,864	42,661	30,804
	戸田記念墓地公園	345,807	378,446	415,244
	シーサイドみなくるパークゴルフ場	28,964	31,676	27,775
	ゴルフ場	128,775	126,634	120,705
	厚田ふるさとあきあじ祭り	12,000	15,000	12,000
浜益区	川下海水浴場・キャンプ場	84,906	42,456	32,140
	白銀の滝	3,655	18,352	13,892
	浜益温泉	40,861	69,242	65,070
	浜益ふるさと祭り	5,000	5,500	6,050
	サケ有効利用調査	3,847	3,745	4,158

観光入込客合計	1,403,223	1,225,586	1,128,071
---------	-----------	-----------	-----------

資料：石狩市企画経済部商工労働観光課（各年度末現在）

#### イ．課 題

最大の観光資源である海水浴場について、安全性の向上やイベント実施による魅力アップを図り、集客力をあげていくことが必要であると同時に、海水浴客が地域経済に波及効果をもたらすような仕組み作りも重要となる。

また、食メニューの充実化を一層推進し、豊富で高品質な農水産資源を活用した新商品の開発や販路の拡大、PR を積極的に実施することによって、物産振興による観光客の誘致推進が求められている。

その他、一次産業の体験メニューや産業観光を組み込んだツアーについては、既存商品の磨き上げを行うとともに新たなメニュー開発や商品化促進のためのプロモーション活動を行う必要がある。他市町村と連携した広域観光ルートの開発や事業者との共同プロモーションなども今後取り組みを強化すべき分野となっている。

### 5．雇用・勤労者対策の推進

#### ア．現 状

北海道の完全失業率が全国平均より高いなど厳しい雇用情勢のなか、石狩湾新港の背後の工業・流通地区に企業が進出し、雇用の確保に大きく貢献しているものの、市内における若年労働者の地元就職の促進、人材の育成・発掘など、雇用機会の拡大促進が求められている。

平成 21 年 6 月 1 日よりこれまでの「いしかり雇用サポートセンター」に変わりハローワーク札幌北と本市が協同し「ジョブガイドいしかり」が市役所本庁舎に開設され、求人検索コーナーの充実、就業アドバイザーの就業支援業務を実施している。

さらに高齢者・女性・障がい者等に対しては、就業アドバイザーによるアドバイスその他、専門的な対応を要するため、市の担当所管やその他関係機関と連携し、適宜対応している。

#### イ．課 題

雇用情勢は、雇用者数の伸びが鈍化し、完全失業率が高い水準で推移するなか、石狩湾新港地域に企業が進出し、雇用の確保に大きく貢献している。しかしながら、少子高齢化が進み、社会福祉環境が変化する中で高齢者・女性・障がい者などへの就業支援の強化が求められている。

また、パート・派遣労働者など非正規雇用労働者が増加するなど、就業形態や勤労者の就業意識の多様化が進むなか、健康で快適な労働環境と安定雇用に努めるよう、事業所に対して理解と協力を求めることが必要となっている。

事 務 連 絡  
平成23年 8月22日

各市町村商工担当課長 様

北海道石狩振興局産業振興部商工労働観光課長

「新たな地域商業の活性化に関する条例」の制定について

日頃から、石狩管内における地域商業の振興につきまして、格別のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、道では、地域の商業を取り巻く厳しい環境に対応するため、今年度、新たな地域商業の活性化に係る条例を制定することとしており、現在、当該条例の策定や条例に基づく施策等の検討が進められております。

つきましては、別添のとおり、現時点における条例策定の基本的な考え方などにつきまして、お知らせします。

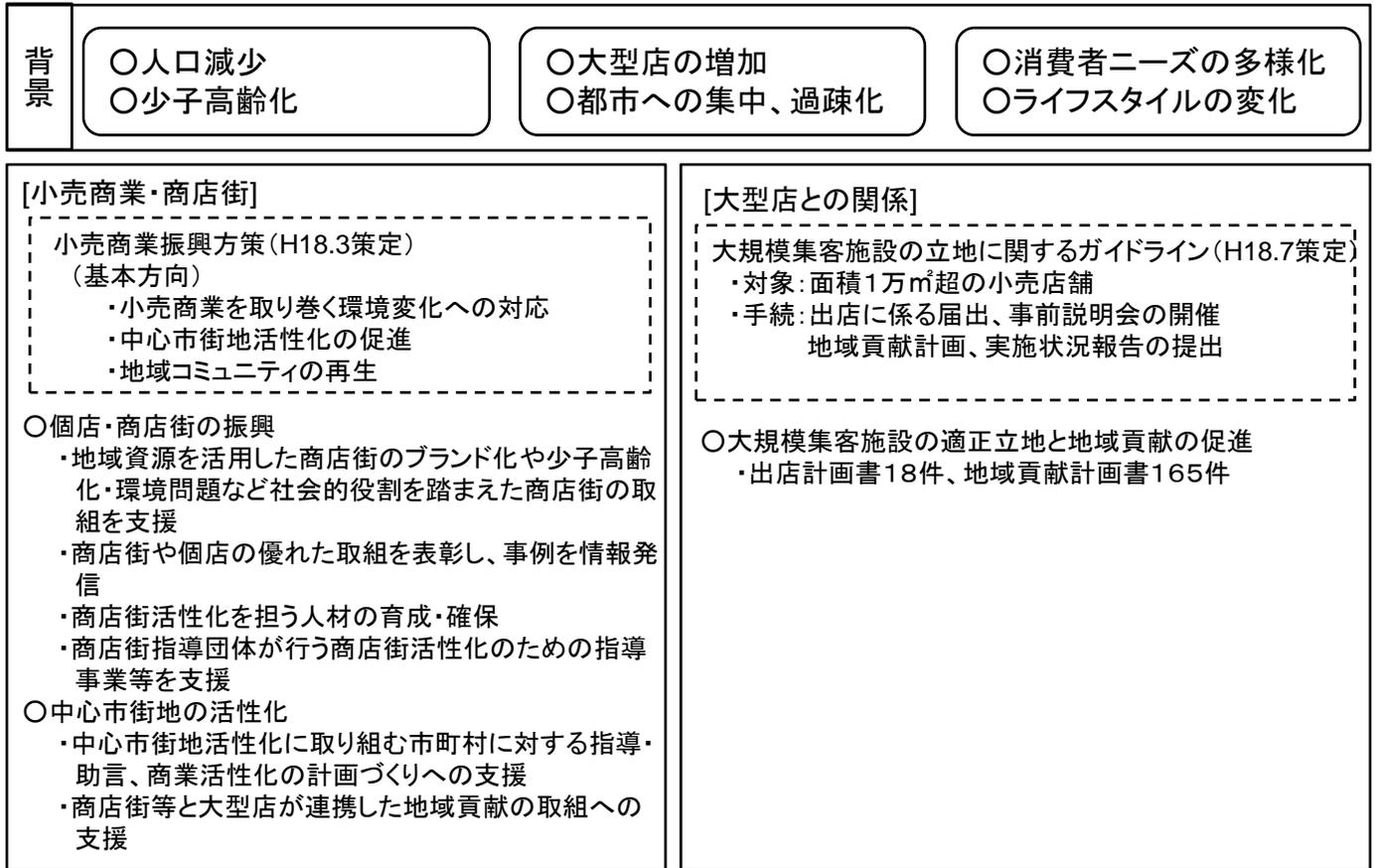
(商工振興係 担当：岩淵)

# 新たな地域商業の活性化に関する条例の制定について

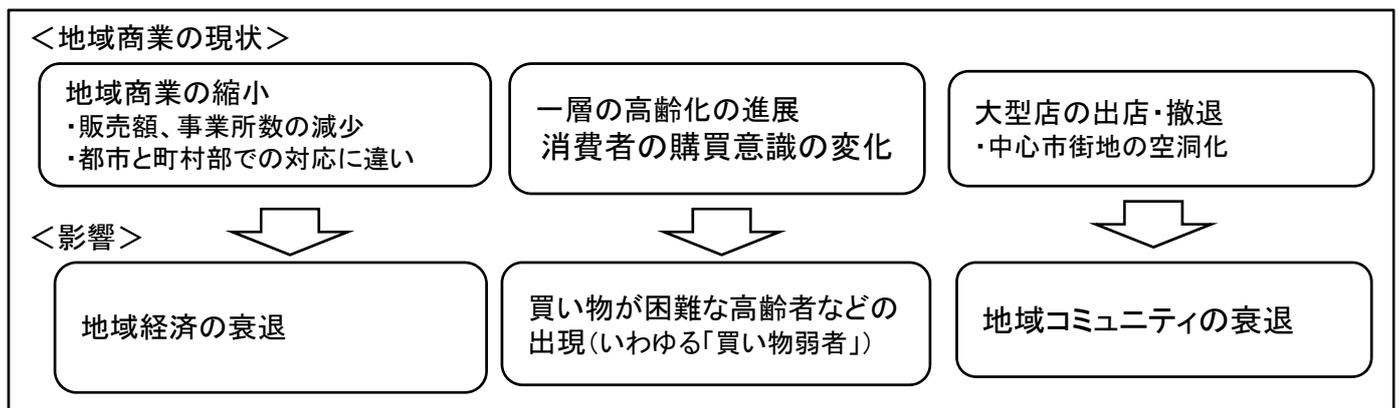
北海道経済部

## 1 条例制定に至る経過

[これまでの取組]



[ 現 状 ]



北海道商工業振興審議会に「今後の本道小売商業の振興のあり方検討部会」を設置し、小売商業のあり方及びガイドラインの見直しについて検討開始

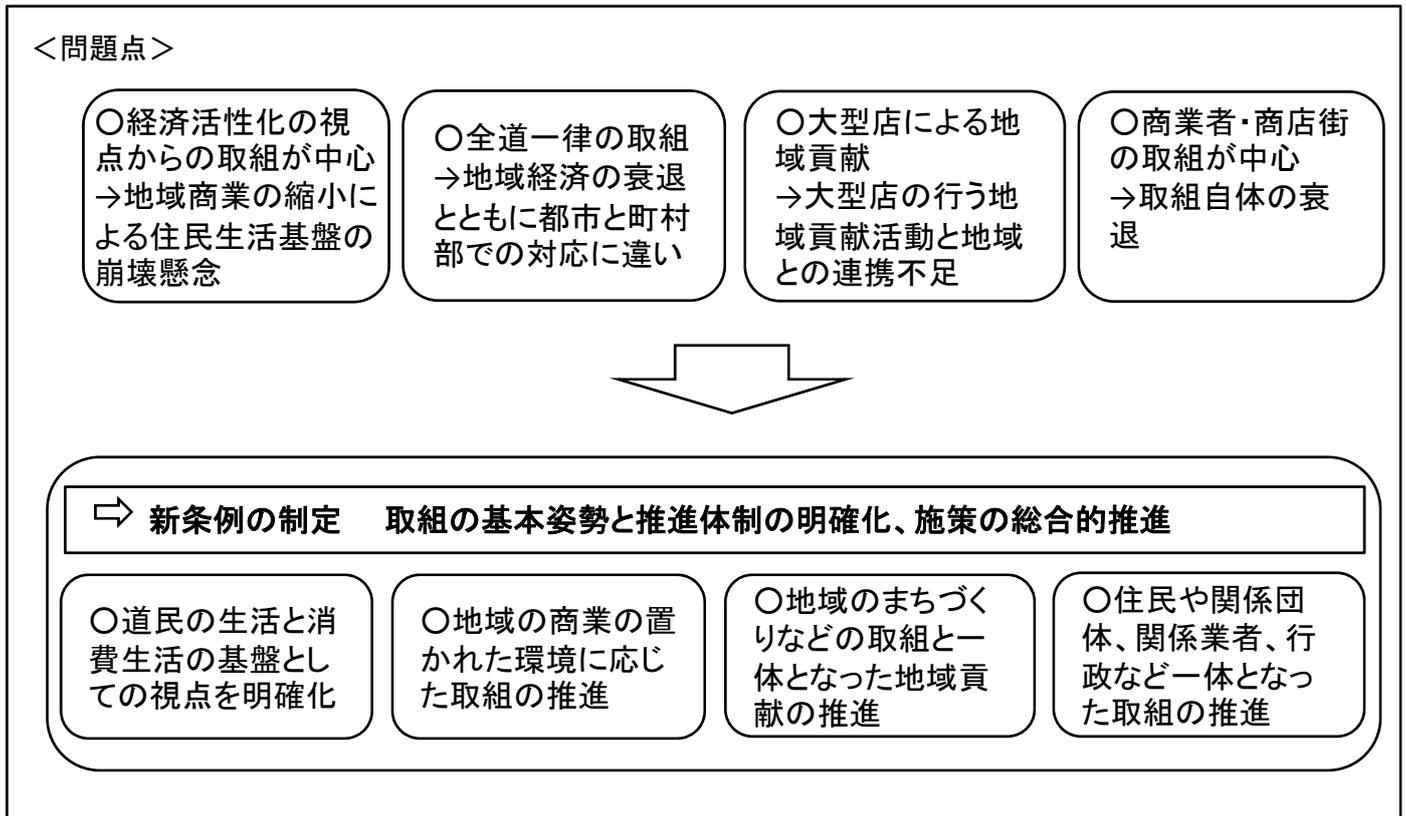
平成23年第1回定例会知事答弁「(小売商業の振興を図るため)条例を制定してまいりたいと考えております。」

**新たな地域商業の活性化に関する条例の制定**

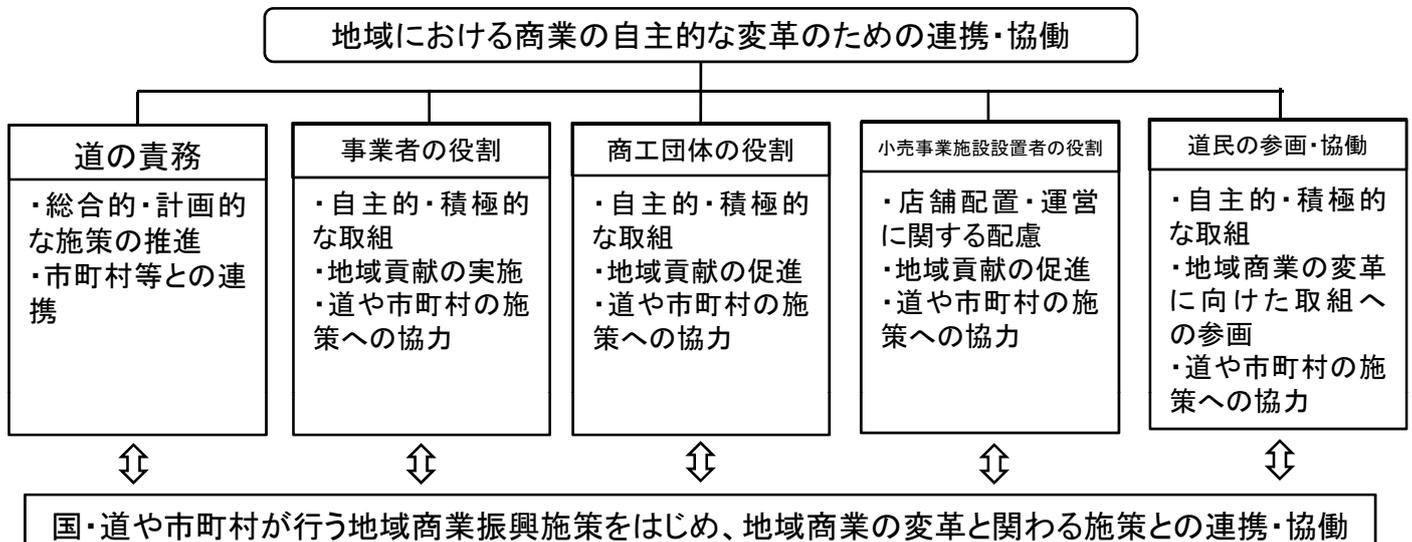
## 2 条例制定の方向性について

- 地域商業は地域経済の中核として、また、道民の暮らしと生活基盤、地域のコミュニティの場として大切な役割を果たしている。
- 新条例は、道の責務、事業者、商工団体、道民の役割などを明らかにするとともに、地域商業の自主的な変革を促すための基本方針を定め、連携を強化しながら、一体となって推進し、もって、道民生活の持続的安定と活力ある地域経済・地域社会づくりに資することを目的とする。

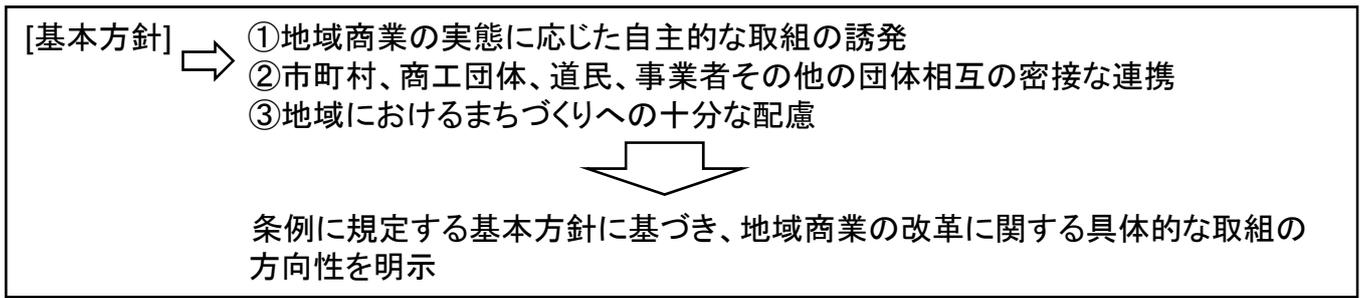
### [ 方向性 ]



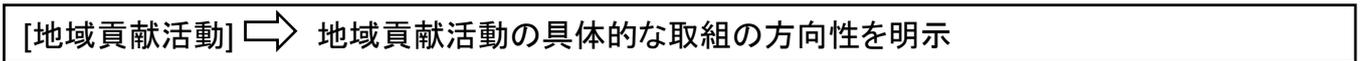
### [関係者の役割]



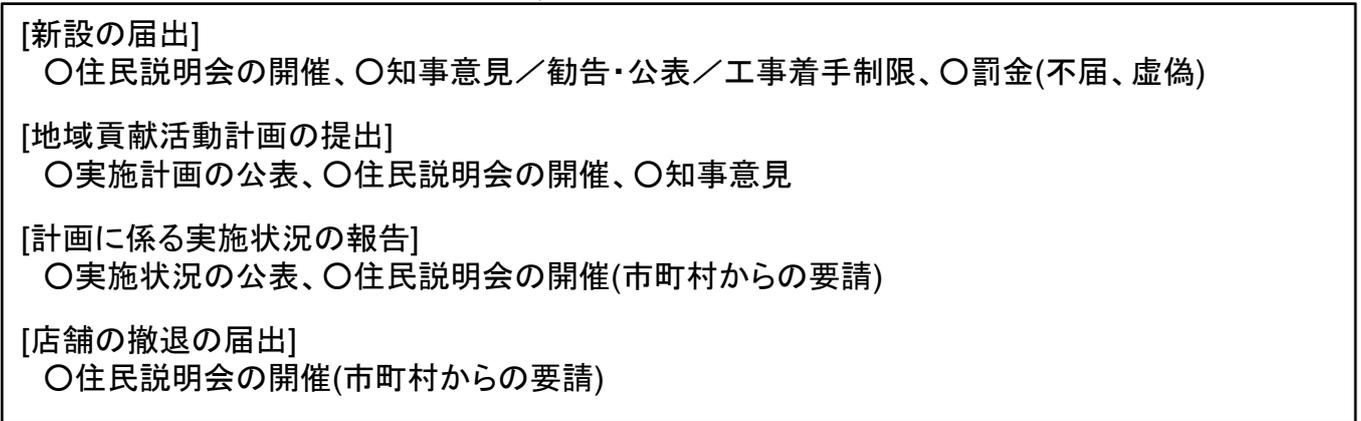
[基本的施策]



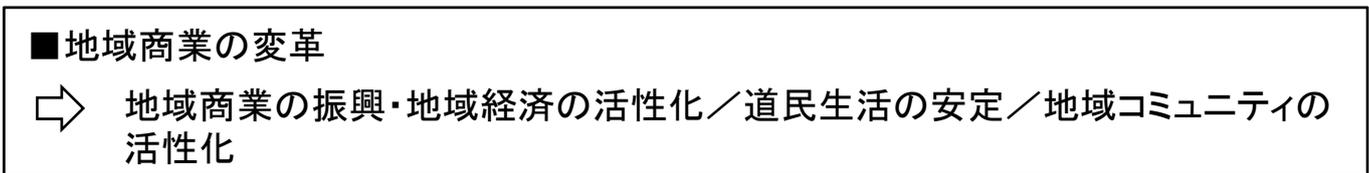
[地域貢献]



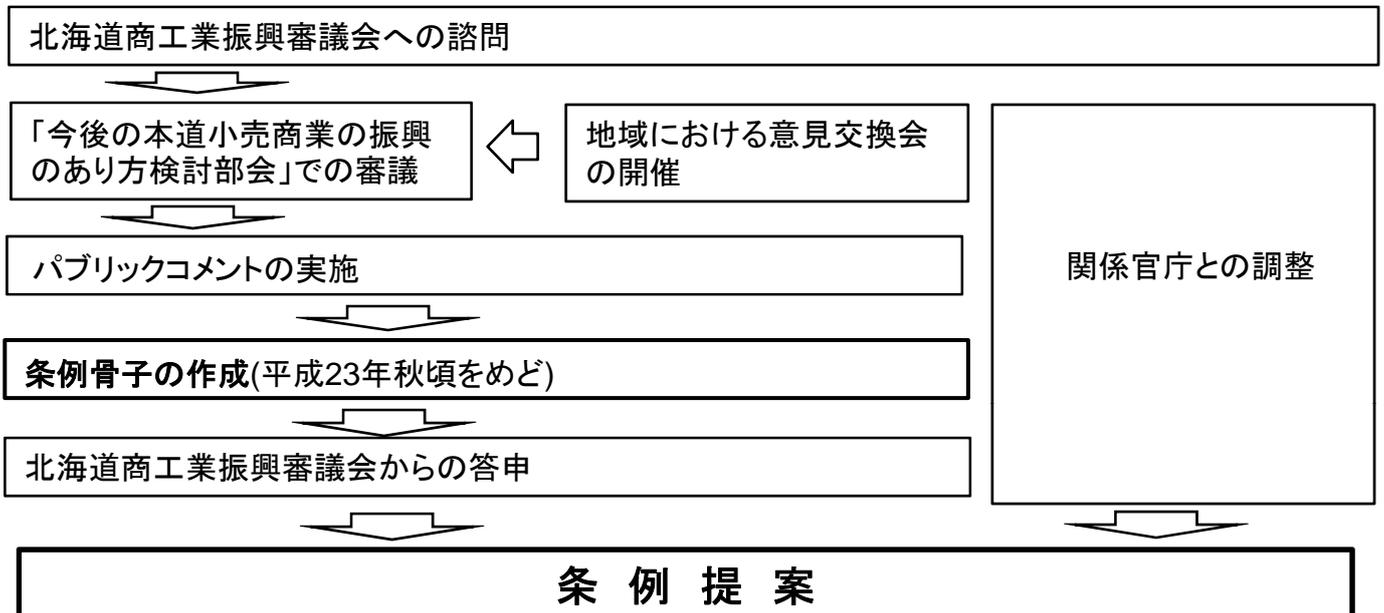
[特定小売事業施設の新設手続等] ⇨ 地域の規模等に応じて面積を設定(従前は10,000㎡)



[目指す姿]



3 今後のスケジュール等



# 平成 23 年度石狩北商工会事業推進計画

## 1. 重点事業計画

- (1) 組織体制の強化学業の効率的推進と会員サービスの向上
- (2) 地域資源活用、農商工連携による事業展開
- (3) 観光事業の積極的推進と観光施設の効率的運営の展開
- (4) 財政基盤強化に資する商工貯蓄共済及び会員福祉共済等の積極的推進
- (5) 情報ネットワーク化の推進と記帳機械化業務の効率的推進
- (6) 本所・支所間の密接な連携調整による事業・事務の円滑・効率的推進

## 2. 具体的な事業計画

### 1. 経営改善普及事業

- (1) 商工業に関する相談・指導
  - ① 記帳継続指導及び機械化業務の実施
  - ② 金融や信用保証に関する相談・指導
  - ③ 税務及び経理に関する相談・指導
  - ④ 労務に関する相談・指導
  - ⑤ 経営合理化、経営革新等に関する相談・指導
- (2) 巡回及び窓口相談指導業務体制の強化
- (3) 講習会・研修会等の開催と個別・集団指導の実施
- (4) 部会及び青年部・女性部事業の指導、育成
- (5) 各種共済制度等の紹介と普及

### 2. 地域振興事業

- (1) 総合振興事業
  - ① 商工業の組織強化と会員サービスの向上及び財政基盤の確立
  - ② 地域振興発展に関する研究並びに関係機関に対する建議・請願・陳情
  - ③ 関連団体、関係組織との連携及び事業推進
  - ④ その他総合振興にかかる事業
- (2) 商業振興事業
  - ① 商店街の育成指導、環境整備等の支援
  - ② 地場資源を活用した新商品の開発並びに販路拡大及び育成指導
  - ③ 地場資源活用加工事業者との連携の強化
  - ④ その他商業振興に関する事業
- (3) 工業建設業振興事業
  - ① 工業建設業に関する情報の収集と提供と調査研究
  - ② 工業建設業の技術向上、労働安全対策事業
  - ③ その他工業建設業振興に関する事業
- (4) 観光サービス業振興事業
  - ① 緊急雇用創出推進事業（厚田観光施設を拠点とする観光振興事業）
  - ② 観光サービス業振興に関する情報の収集と参加
  - ③ 石狩市、観光協会、農林漁業等関係団体等との連携と活動の推進

- ④ 厚田海浜プール及び夕日の丘観光案内所の管理運営の推進
  - ⑤ 観光イベント事業の推進と市及び関係団体の地域行事への参加協力及び協賛
  - ⑥ その他観光サービス業の振興に関する事業
- (5) 金融対策事業
- ① 公的融資制度（道・市・株日本政策金融公庫等の融資）の周知と相談・斡旋
  - ② 融資制度に関する改善・要望等の建議・陳情
  - ③ その他金融対策に関する事業
- (6) 税務対策事業
- ① 記帳・決算指導及び代行業務、税務指導
  - ② 税務講習会等の開催
  - ③ 法人会・青色申告会等との連携と事業協力
  - ④ その他税務に関する事業
- (7) 労務対策事業
- ① 労働保険事務組合による事務代行
  - ② 労働関係機関との連携強化
  - ③ 労働関係に関する情報の収集及び提供
  - ④ 労働安全衛生に関する知識の啓発及び講習会・研修会への参加
  - ⑤ 建設工事業業者健康保険の事務代行
  - ⑥ その他労務に関する事業
- (8) 福利厚生対策事業
- ① 商工貯蓄共済、会員福祉共済などの共済制度のPRと加入促進
  - ② 小規模企業共済その他退職金制度のPRと加入促進
  - ③ その他福利厚生対策に関する事業
- (9) 広報事業
- ① 商工会連合会発行の「北の瓦版」の配布
  - ② その他商工会活動に関する情報提供
- (10) 情報化対策事業
- ① 地域及び会員事業所の情報発信
  - ② その他の情報化支援事業
- (11) 青年部・女性部事業
- ① 組織の拡大と育成強化
  - ② 地域振興や奉仕等に寄与する事業
  - ③ 先進地視察研修及び商工業に関する研究等
  - ④ 研修会及び講習会等への参加
  - ⑤ 部員相互の親睦を図る事業
  - ⑥ 関係団体や異業種団体等との交流推進や各種イベント等への協力

### 3. 特定事業

- (1) 事業評価システムの確立と導入
- (2) 人事評価制度の継続と人事交流の推進
- (3) 職員資質向上対策の実施

## 石狩北商工会組織状況（平成23年度）

### （1） 商工業者と会員の状況

#### < 地区別 >

内訳 地区	商工業 者数	小規模 事業者数	会 員 数				加入率 %	企業形態		定款 会員
			前年	加入	脱退	年度末		個人	法人	
厚田	24	24	21	0	0	21	87.5	15	6	6
別所	4	4	4	0	0	4	100.0	3	1	0
足利	2	2	2	0	0	2	100.0	1	1	0
小谷	2	2	2	0	0	2	100.0	0	2	0
古潭	1	1	1	0	0	1	100.0	1	0	0
望来	19	17	10	0	0	10	52.6	5	5	0
聚富	13	12	7	0	1	6	46.1	1	5	0
厚田計	65	62	47	0	1	46	70.7	26	20	6
幌・床丹	8	7	6	0	0	6	75.0	2	4	1
群別	4	4	3	0	0	3	75.0	2	1	0
浜益	25	25	14	0	2	12	48.0	9	3	1
川下	27	24	21	0	1	20	74.1	13	7	0
柏木	7	3	3	0	0	3	42.9	1	2	2
実田	2	2	1	0	0	1	50.0	1	0	0
毘砂別	5	5	1	0	0	1	20.0	1	0	0
送毛	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
浜益計	79	71	49	0	3	46	58.2	29	17	4
合計	144	133	96	0	4	92	63.9	55	37	10

#### < 業種別 >

内訳 業種	商工業 者数	小規模 事業者数	会 員 数				加入率 %	企業形態	
			前年	加入	脱退	年度末		個人	法人
農林漁業	1	1	1	0	0	1	100.0	0	1
建設業	11	11	10	0	1	9	81.8	1	8
製造業	6	6	6	0	0	6	100.0	3	3
運輸・通信業	1	1	1	0	0	1	100.0	0	1
卸・小売業	17	15	14	0	0	14	82.3	12	2
飲食・宿泊	9	9	9	0	0	9	100.0	7	2
不動産業	2	2	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	18	17	6	0	0	6	33.3	3	3
厚田計	65	62	47	0	1	46	70.7	26	20
農林漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設業	10	7	5	0	0	5	50.0	3	2
製造業	4	4	2	0	0	2	50.0	1	1
運輸・通信業	3	2	2	0	0	2	66.7	1	1
卸・小売業	29	28	19	0	3	16	55.2	8	8
飲食・宿泊	15	15	15	0	0	15	100.0	11	4
金融・保険業	2	1	0	0	0	0	0	0	0
電気・ガス・水道業	1	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	14	13	6	0	0	6	42.9	5	1
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0
浜益計	79	71	49	0	0	46	58.2	29	17
合計	144	133	96	0	4	92	63.9	55	37

# 資料 石狩商工会議所

## 平成23年度 事業計画（案）について

### <はじめに>

近年、社会環境の変化に伴い、人々の価値観やライフスタイル、更には観光ニーズも多様化してきています。石狩市には、美しい自然や景観、豊富な食材、地域固有の文化や歴史など、市が策定した「石狩市観光振興計画」を推進する上で有効な観光資源があり、これら資源を環境に配慮しつつ有効に利用し、訪れた観光客により大きな満足を提供できるよう施設の整備、組織の充実に努めるとともに、新しい観光資源の発掘や観光ホスピタリティーの向上など、地域個性を生かした観光地づくりを目指します。

#### 1) 観光宣伝及び観光客の誘致促進

道内外の観光客に対して、石狩市への観光行動の促進と石狩市の魅力を周知浸透させるため、観光リーフレットの発行など誘客宣伝事業を通してPR活動を行います。特に、「石狩市観光センター」は、石狩市の観光拠点として情報を発信し、誘客促進に努めます。

#### 2) 石狩市等からの受託業務

観光資源を有効利用するために、これまでの観光施設や駐車場などの管理運営にとどまらず、受託業務の拡大に努めます。

#### 3) ヴィジターセンター

石狩市の大きな観光資源の一つであり、豊かな自然を提供している「はまなすの丘公園」の入口に位置するヴィジターセンターは、年間10万人を超える公園への来訪者の憩いの場であると共に、観光センターと並んで石狩市の観光の発信拠点としての役割を担っております。公園来訪者の4割程度にとどまっている入館者を一人でも多く入館していただき、リピーターとなっていただけできるよう、より充実したサービスの提供に努めます。

#### 4) 石狩浜海水浴場・川下海水浴場

「あそびーち石狩」は、誰もが安全で安心して楽しめるきれいなビーチを目指し、海の家事業者の協力を得て、バリアフリーやゴミ持ち帰り運動も定着してきておりますが、さらに運動の強化推進に努めます。

川下海水浴場は、地域との連携をとりながら運営にあたり「あそびーち石狩」同様、来場者が満足できる海水浴場の提供に努めます。

#### 5) 石狩市川下海浜施設

川下海浜施設は42,120㎡の広さを持つ海浜公園です。芝生と樹木が点在する整備された公園で、夏には隣接する海水浴場の客がテントを張り賑わいを見せます。

いつでも来場者が楽しめ、和める公園であるよう維持、管理に努めます。

#### 6) 石狩市観光センター物産コーナー

オープンして6年が経過した石狩市観光センター物産コーナーですが、地場商品のアイテムを中心に徐々に商品も増え、その存在も知られるようになって来ました。今後は、より一層、来場者のニーズに応えられる商品構成の充実に努めます。

## 事業推進計画(案)

定款第4条の事業	事業計画	事業内容
1. 観光宣伝及び観光客誘致促進	1. 観光パンフレット、マップの作成	・観光リーフレット「石狩宝自慢」の改定
	2. 観光宣伝・観光客誘致事業	・名刺台紙の利用促進 ・姉妹都市関連商品・物産の展示・販売 ・観光ボランティアガイド事業の実施
	3. イベント開催	・石狩鮭まつり 9/24・25 ・厚田ふるさとあきあじ祭り 9/23 ・浜益ふるさと祭り 9/18 ・浜益林道ウォーク 9/18 ・恋人の聖地関連イベントの開催 ・GLAYモニュメント花壇造り 5/21 ・いしかり産業まつり共催・花火 8/20 ・千人釣大会の共催 5/22
	4. イベントの支援	・海水浴場イベントの支援
	5. 渋井一夫遺作品の管理と展示	・ビジターセンター展望ラウンジ ・総合福祉センター(りんくる)
	6. 観光案内看板の設置	・誘導サイン看板の設置管理
	7. サイクリングターミナルの設置	・レンタサイクルの貸出
2. 観光資源の保全及び美化事業	1. 石狩浜クリーン作戦と愛護事業への協力	・日本海クリーンアップ作戦の支援 6/中旬 ・マクンベツ地区の清掃の実施 4/23 ・川下海岸の清掃の実施 4/25 ・観光地ゴミ持ち帰り運動の実施 ・イベント開催時のゴミ減量作戦の実施 ・イベント開催時のアンケート調査の実施
3. 観光施設の設置	1. 石狩浜海水浴場(あそびーち)の管理運営	・安全祈願祭と海開きイベントの実施 ・バリアフリービーチ事業の実施 ・海水浴場監視業務
	2. 川下海水浴場の運営管理	・安全祈願祭の実施と監視業務
	3. 恋人の聖地の運営管理	
	4. 簡易宿泊所の設置	・ライダーハウスの設置と無料開放
4. 観光関係者の資質向上	1. ホスピタリティー運動の推進	・ホスピタリティー運動の提唱と研修会の参加
	2. 観光誘致研修の実施	・先進地での現地研修
	3. 接遇研修会の企画と運営	・研修会及び公衆化の企画と参加の呼びかけ
	4. 観光ガイド研修会の実施	・ガイドボランティアの会と連携し、研修会を企画、参加の呼びかけ
5. 観光土産品	1. 観光土産品の開発と販売	・観光土産品の調査販売の推進 ・新たな土産品の開発

定款第4条の事業	事業計画	事業内容
6. 観光関係主機関並びに団体との連携	1. (社)北海道観光振興機構	・観光情報の収集 ・研修協議、管内観光と物産フェアへの参加
7. 観光情報の収集と提供	1. 観光情報の提供と観光施設・ホテル等の紹介	・滞在型観光の促進
	2. 観光情報誌の購読と観光資料の提供	・新聞、雑誌等への資料及び情報の提供 ・観光情報誌等からの情報収集
	3. メディアの活用	・ラジオ・テレビへの出演 ・新聞・雑誌の取材協力
8. 観光振興計画の推進	1. 地域個性を生かした観光	・石狩鍋復活プロジェクト ・「あき味の会」支援 ・さっぽろ広域観光圏拠点観光地づくり ・さっぽろ広域観光圏周遊促進事業 ・さっぽろ広域観光圏モデルツアー事業 ・海水浴場の活性化 ・石狩発信ラーメン開発プロジェクト
	2. 農山漁村の価値を高める観光	・森の活用プロジェクト
	3. お客様の視点から始める観光	・プレスリリース会議の決定事項の履行体制の強化
	4. 持続可能な観光	・手つなぎプロジェクト(観光サポート体制づくり)
9. 市からの受託業務	1. 駐車場の運営管理	・施設設備の管理運営
	2. 観光地トイレ・公共駐車場管理	・管理業務と清掃
	3. はまなすの丘公園等の管理	・施設管理と清掃・案内業務 ・管理棟(運上屋)・公園・楽山居管理清掃
	4. 石狩市観光センター管理	・施設管理と清掃業務
	5. 石狩市川下海浜施設管理	・施設管理・清掃・駐車場運営管理
	6. 緊急雇用創出事業	・観光関連商品開発普及推進事業 ・石狩鍋による観光振興事業業務 ・石狩浜海水浴場魅力アップ事業業務
10. その他法人の目的を達成するために必要な事業	1. 会員拡大運動の推進	・観光関連企業・団体への加入促進 ・土産品店・飲食店への加入促進
	2. 収益事業の実施と拡大 1) 海水浴場駐車場の運営管理 2) ヴィジターセンター売店運営 3) 地場産品の情報提供と販売所の開設 4) 浜益川サケ有効利用調査	・海水浴場駐車場の効率的な運営管理 ・施設管理及び売店管理 ・観光センター内に物産コーナーを開設 地場産品・土産品の販売 ・イベント会場等での物産の販売 ・調査・運営管理、サミット

<専門委員会所管事業>

<p>総務委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総括と全体調整</li> <li>・ 組織強化と会員拡大運動の展開</li> <li>・ 関係機関との連携</li> <li>・ 関係者の資質向上事業（研修会・講習会）</li> </ul>
<p>第1事業委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規観光まつり創出</li> <li>・ まつり（イベント）の企画・実施</li> <li>・ 観光宣伝及び観光客誘致促進</li> </ul>
<p>第2事業委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収益事業の展開（規模拡大及び新規事業の創出）</li> <li>・ 観光資源の開発と観光スポットの創出</li> <li>・ 観光資源の保全及び美化事業</li> <li>・ 物産品の研究・推奨・宣伝事業</li> </ul>

# 資料 石狩商工会議所

## 石狩市地場企業等活性化審議会に係る課題・意見・提案事項について

H23.8.18

策定委員 後藤正和

策定委員 松尾拓也

### 前提要件

地場活性化等計画期間 平成24年度から5年間

石狩市第4期総合計画の「産業分野目標：元気で活力あるまち」H19年～H28年

- 施策
- ①農林業の振興
  - ②水産業の振興
  - ③商工業の振興と創業・起業の促進
  - ④観光の振興
  - ⑤石狩湾新港地域の振興
  - ⑥雇用・勤労者対策の推進

### 視 点

#### 1. 地場企業活性化に向けた視点・課題について

新しい検討課題

- ① 6次産業化の調査研究及び方策の策定 . . . 【戦略事例①・②・③・④】
- ② 少子高齢化社会に対応するための調査研究及び方策の策定  
. . . 【戦略事例①・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩】
- ③ 新港地域と既存市街地の連携を強化するための調査研究及び方策の策定  
. . . 【戦略事例①・⑦・⑧・⑨】

### 戦略事例

#### 2. 地場企業等活性化計画に向けての方針について

- ① 現状把握のための実態調査の実施(まちづくり形成意識調査を含む)
  - ・市民生活意識実態調査
  - ・商工業者経営意識実態調査
  - ・新港地域経営意識実態調査
- ② 道の食加研センターの移動技術支援講習会などを開設し、地元の素材の活用などの普及促進を図る。
- ③ 地元製品の販路拡大を図るため、新商品の発掘、ブラッシュアップ(磨き上げ)や販売促進に向けたマーケティング活動支援制度の創設(北海道どさんこプラザ出品支援等)

- ④ 地元産品の取引マッチング促進事業  
地元産品の原材料である「食」に対する関心を高め取引の促進を図るため、市内の人気商品や地元情報を幅広い情報をHP等で発信する。
- ⑤ 中小零細企業への経営改善の相談・指導など総合的な支援を行うプラットフォームなる組織（行政、会議所、専門家、各種団体など）を創設し、事業再生や新規創業の支援するほか、事業支援に係る助成制度の確立
- ⑥ 地元民間企業からの自主的な提案に基づき、地域経済分野などの活性化を図るため、石狩市と協力関係を構築し、連携協力に関する協力を締結し地域経済の活性化を図る。
- ⑦ 地域通貨及び地域商品券発行事業の実現化へ向けた調査・研究  
少子・高齢化と地域コミュニティ形成を図るツールとしての地域通貨システムは、コミュニティ醸成・助け合い支援そして地域やコミュニティのアイデンティティを発信する効果があり、地域商品券発行事業との併用で、より地域経済活性化が図られ、当市の今後のまちづくりに寄与することが期待されます。
- ⑧ 地域の個性を生かした魅力ある観光、名所づくり  
地域の優れた「食」「自然」などの資源を生かした観光振興を図る。  
特に、道内外・外国人の受入支援に係るサポートと情報発信に係る支援策
- ⑨ 石狩市内の企業情報発信事業  
企業情報をデータベース化し、受発注取引、販路開拓、企業誘致の促進を図るため、ポータルサイトや情報誌により幅広く情報発信する。
- ⑩ 国や北海道の中小企業支援制度の周知と連携を図り施策事業のマッチング等の促進を図る。

資料 石狩北商工会

## 石狩北商工会運営に係る諸課題及び対応策調査票

商工会（担当：岡林 位和）

1	<p>組織体制（事業所統計数値採用に伴う超過職員数、広域連携、合併等を含む）に係る課題と対応策。</p> <p>（１）課題 平成18年の厚田・浜益両商工会の合併後、経営指導員は、平成20年度中に1名異動に伴い減員。道単の補助対象である事務局次長（支所長）は平成21年度末に退職しその後の補充は無し。補助員については、平成22年度より2名のうち1名を記専に降格（記専は平成21年度末に定年退職）するなどに対応してきた。事務局長は、道の小規模補助金の設置基準となっているため、会員数（100会員以上）及び組織率（商工業者数の加入率65%以上）をクリアしていくことが当面の課題である。</p> <p>（２）対応策 今後、会員（定款会員を含む）の増強を図るとともに、相談業務や訪問活動を強化し脱会を最小限に食い止める必要がある。</p>
2	<p>財政運営計画策定に伴う課題と対応策。（道補助金・市町村補助金の縮減、会費等自主財源の確保等）</p> <p>（１）課題 会の財政的基盤を確保するため、平成21年度から観光案内業務を市の指定管理者となっていて行っているが、決算としては収支赤字となっている。また、平成21年に開設した厚田海浜プールの管理運営業務を市から委託されているが、厳しい運営状況となっている。</p> <p>（２）対応策 将来的には、石狩市から市内に存在する会議所との一本化を迫られることも想定されるが、まず、浜益支所の閉鎖を検討するなど事務の効率化を図る必要がある。しかし、一方では会員サービスを低下させる可能性もあるので、会員の理解のもとで進めていくことが最前提となる。</p> <p>また、観光案内所の誘客に向けた取組みを進めるとともに、海浜プール運営に係る経費の見直しを行う必要がある。</p>
3	<p>経営改善普及事業及び地域振興事業実施（創業・経営革新及び専門的支援への取組みを含む。）への課題及び対応策。</p> <p>（１）課題 年々地域の過疎化が進行し、新たに起業するあるいは新しい分野に進出する動きは皆無に等しい。既存の会員も多くないので経営指導員が専門分野を持つこと、若しくは、専門家の支援を要請する意義が薄いと思われる。</p> <p>また、地域資源を活用した事業展開も問われているが、既存の事業者では高齢化や財政力不足等により厳しい現状となっている。</p> <p>（２）対応策 会員事業者等のニーズを最大限に把握し、地域外業者の企業誘致も検討する必要があるが現状は極めて厳しく、見通しが立たない状況下にある。</p>

# 資料 石狩市農業協同組合

## 石狩市地場事業活性化審議会報告（JAいしかり）

### 1. 第1次産業の現状と課題

第1次産業の現状と課題については資料に記載されている内容とほぼ同じ状況となっている。近年農業従事者の高齢化が急速に進んでおり、農家戸数の減少とともに大規模経営への農地の貸借が進み、農地が流動化されて水田が牧草などの飼料作物に置き換わり生産高の減少となっている。また地物直売野菜の扱い高が増加しているが生産を支えている世代層は60代～70代が大半を占めるので現在の多生産者で多品目を出荷している構成を少生産者でも多品目を出荷できる体制に進めなくてはならない。そのためには石狩の農業の将来の方向性として石狩の地域特性を活かした労働集約型農業経営をさらに進めることが簡要で、資料にもある雇労働者対策の推進では、現在行われているグリーンサポーター（都市部の労働力を農村部に投入する仕組み）については更に機能化するために石狩の中小企業と連携した人材の確保および、他産業とジョイントした冬期雇用も含めた通年雇用化の実現が必要となっている。

### 2. 地場企業等育成と産業技術の開発促進

農商工連携事業では資料の通り中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、中小企業者は当該事業に農林水産物の生産活動以外の事業（加工・販売）等を行うことにより、中小企業の経営の向上かつ農林漁業者の経営の改善が期待できる。

#### <これまでのJAいしかり取り組み事例>

- ・ いしかり漬け（原料＝農業者＋加工＝漁業者＋販売＝JA）

平成16年頃より、地元漁師の家庭の味であった石狩産しゃけの切り漬けに着目して地産地消として商品化したもの、農業者からは大根、人参、キャベツの供給、漁業者からは秋しゃけやにしんの供給、漬ける作業は地元漁師に依頼して年間800樽（4800kg）の生産となっている。

問題点＝地元漁師の奥さんが中心となりパート数名ほどで狭い倉庫で生産しているため年間生産量が限定され数が少ないことから、生産量を拡大する方向で地域内の農協女性部に依頼してレシピを教わり「いしかり漬け」を作らせたが風味が出なく失敗、大量生産を断念し現在に至っている。

生産規模の拡大とレシピの確立および販路の拡大が課題となっている。

- ・ 地酒いしかり（原料＝農業者＋製造＝酒造＋販売＝JA・地元商店等）  
平成8年頃より地酒ブームに乗り石狩産のお米を使った清酒造りに取り組み、北海道酒精に依頼して「地酒いしかり」を作る、現在は少量販売となっている。
- ・ いしかり産米加夢加夢（原料＝農業者＋精米＝地場工場＋販売＝JA）  
平成7年石狩市民に公募してネーミングとパッケージを作成、精米と包装は地元パールライス工場で製造している、品種はきらら～ほしの夢～ななつぼしに移行している。
- ・ いしかり地ビール加夢加夢（原料＝農業者＋製造＝地ビール工房＋販売＝地元商店等）  
当初地ビール製造で石狩産米を使用したビールとして販売されていた。

#### その他地物農産物加工例

- ・ ミニトマトジュース
- ・ かぼちゃ羊羹
- ・ 地元麦のパン
- ・ にんじんカステラなど

これまでの取り組みでは地元中小業者など他業からの協力を十分得ておらず、生産体制や販売先が限定的でありこれらの商品を十分PR出来なかった為にヒット商品には至らなかった。

今後加工商材の開発についてはJAや生産者ばかりではなく、石狩市を窓口とした中小業者の持つ技術と販売網とのマッチングによる連携の場を設けるなどグローバル化を図ることにより大きな商材が生まれる可能性がある。

## 新連携事業

石狩市内にはビニールハウスが約300棟 約30000m<sup>2</sup>でミニトマトやメロン 花卉類その他野菜が生産されているが、11月～3月までの冬期間はほとんど利用されていない。要因としては冬期間の暖房費や除雪費用が大きいことでコスト高となることにより本州産地との価格対抗が出来ない為で、石狩市内の農商工業連携により新たな技術による動力資源や光熱資源が開発されれば冬期の生産が可能となる。

## 4. 地場産財の普及と販路拡大

(1) 地産地消では資料にある直売事業が平成10年頃より始まり今年更に拡大され地物市場「とれのさと」としてリニューアルされ石狩産の野菜や果物をはじめ魚介類や肉類も扱い今年の売上高は1億3千万円を予定している。

地元産品の流通事業として平成22年度より開始された「まるしえ便」による産直移動販売では、生産現場から直に集荷した生鮮野菜を市内消費者にその日にお届けしている。

### (2) 石狩ブランドの確立

新しい地域資源(農産物)として、石狩市農業総合支援センターの試験農場で将来有望な野菜を試験栽培している

- ・ アイスプラント ・ さつまいも ・ 落花生 ・ キクイモ ・ アピオス
- ・ オカヒジキ ・ ロマネスカリフラワー他

以上の農産物等を活用した地元特品の開発や飲食店での利用が期待される。

### (3) 周辺自治体との連携

平成20年から23年まで札幌市および周辺市町でサッポロハーベストランドを立ち上げ札幌「さとらんど」で地物農産物をPR販売し地産地消に取り組んだ。

以上

# 資料 北石狩市農業協同組合

## 各団体の意見等について

### ・農業・JAを取巻く情勢と課題

#### 【農業】

1. 国際的な環境の変化
  - ・世界的な金融危機を契機とした穀物価格の高騰。
  - ・WTO, 日豪EPA交渉、TPP問題。
2. 国産農畜産物への期待と環境に対する意識の高まり
  - ・穀物・食料価格の世界的な高騰を契機に、輸入野菜の残留農薬、産地偽装、輸入米の不正規流通等が後押し。
  - ・地球温暖化、環境汚染等の環境問題に対して、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成といった農業の多面的機能について国民からの理解。
3. 農業政策の転換
  - ・世界的な食料需給が逼迫する中で、食料・農業・農村基本計画の見直し、農地制度の見直し、今後本格化しかねないWTO農業交渉等我が国の農業政策は大転換期に直面している。

#### 【JA】

1. 経営基盤の強化
  - ・農業者の高齢化、担い手不足による正組合員減少に伴うJA基盤の弱体化。
2. 財務収支の健全化
  - ・他業態との競争激化、農家数の減少等により事業利益確保のため事業量拡大への取組。

### ・JA北いしかりの現状と課題

1. 正組合員動向と課題
  - ・高齢化による組合員の減少
  - ・組合員戸数の減少
  - ・後継者不足
  - ・担い手不足
  - ・労働力不足
  - ・農地の集積化
  - ・組合員組織の活性化・合理化
  - ・農業政策の不透明感
  - ・消費動向に伴う農業に対する追い風と期待感

## 2. 市場（消費者）動向と課題

- ・安全・安心志向
- ・良食味・高品質志向
- ・低価格志向
- ・健康食志向
- ・輸入農畜産物の増加
- ・ファーマーズマーケットの拡大
- ・少子高齢化の進展
- ・ライフスタイルの多様化によるニーズ・価値観の複雑化
- ・平均的な消費者層が縮小し、少数派が多種多様化しながら拡大傾向

## 3. 利用者（准組合員、員外者）動向と課題

- ・金利の自由化に伴う金融店舗選択の自由化
- ・大口貯金者・年金受給者の獲得激化
- ・利用者の消費の低迷
- ・近隣量販店へ消費流出
- ・車社会による移動の広範囲化
- ・コンビニエンスストア利用急増
- ・通信販売利用増加

## 4. 農地を取巻く現状と課題

- ・耕作放棄地の拡大懸念
- ・他業態の農業参入の激化・定着化（将来）

## . 重点検討項目

1. 地域農業振興計画
2. 食の安全・安心の確保及び環境調和型農業の推進
3. 営農情報の発信
4. 生産資材コストの低減と資材情報・サービス・品質の向上対策
5. 貯金事業の強化
6. 融資事業の充実
7. 共済事業の強化
8. JA経営管理体制の強化
9. 財務の健全化確保対策
10. 教育活動体制の強化

# 資料 瀬尾委員

2011年7月25日

石狩市長 田岡 克介 様

石狩市地場企業等活性化審議会委員 瀬尾 英幸

本日の第1回審議会において、次回以降のために意見の提出を求められましたので、以下の通り、2点につき提出します。取り上げていただければ幸いです。

記

1、審議会委員の選定委嘱について

人数、事情などにつき不明ではありますが、「女性、労働組合、青年」の委員を当然入れるべきと考えます。

より民主的、合理的に、かつ「地場企業等活性化」を目的にする審議を進めるうえで、不可欠と考えます。

2、私は前職において、約40年間外食関係（業務用食品販売）の仕事をしていました。

従って、お料理には特段の関心があります。これまで幾多のお料理を食し記憶に残っているものの一つに、当市大川屋さんの「フルコースの鮭料理」があります。もう20年も昔のことですが、鮮烈な印象です。私は日本各地の多くを歩き、あれだけの本格郷土料理は滅多にないと断言できます。

先日、久しぶりに奥様にお会いしそのお話になりました。奥様は「もうあの料理を出せる人は何人もいなくなった」とのこと。

是非、当審議会の事績として、この北海道遺産ともいうべき『鮭のフルコース』料理の伝統の灯を決して消すことなく、格別の振興策を取ることは極めて重要なことであると思慮します。単に地場企業活性化策ばかりでなく、低コストの観光振興はもとより、文化事業でもあり、特異技能の人材育成、従って地域振興にもなり、日本全国有数の「差異化」事業になるものです。

今、積丹町では「ソーラン節」の振興を軸にした新たな地域興しが進められていると聞いています。近隣の同じ日本海岸で、軌を一にして伝統への脚光を当てるような動きが動き出すと、相乗効果も大きいと考えます。

以上



いんげん  
こぼれ

大山銀座街<全国ふるさとふれあいショップ「とれたて村」>

久しぶりの東京/板橋

20110715 瀬尾 英幸

- \*07年、情報を仕入れた瀬尾が、たまたま会社に来訪の宇藤潔氏と共にアポしていた山田勝磨市長を訪ね、とれたて村との契約・出店を強く進言。市長は即断、推進を約束。3週間後に成約。その後、3度ほど訪問していた。
- \*その後の検証と動向、新ネタ仕入れのため7月3日日曜日約束の朝8時に訪問。
- \*見学のためもあり、都営地下鉄板橋区役所で下車、2kmほど歩く。事務所に行く道すがら新規の店舗=イベント会場「ハッピースクエア」を眺めたら、何と当事者の振興組合の水野隆司事務局長が若い人1人と、懸命に片付けと準備に追われている姿。
- \*当方も1時間ほどで帰路のため羽田に行かなければならに身。挨拶もそこそこ、すぐ質問攻め。

- 1、瀬尾「スーパー・百貨店、コンビニ、ネット・通販、これ以外の流通は何がありますか？」  
水野局長「対面販売、それも生産者による販売。商品知識と情報、真剣度が違う」
- 2、瀬尾「とれたて村の状況は？」  
水野局長「伸びているがまだまだ。1億円を売りたい。いまは5000万余。それでないと自治体にもメリットはないはず」「1自治体で月商50万はやって欲しい」  
「出店契約は13番目が秋田市で打ち止め」
- 3、瀬尾「小樽はどうですか？売上げ1位2位はどこですか？」  
水野局長「小樽さんは健闘している」「1位は山形県最上市、2位は岩見沢市」  
瀬尾「えっ?!何が売れているの？」  
水野局長「どちらも野菜」
- 4、瀬尾「このイベント会場はいつから？目的は？」  
水野局長「先月6月18日から」「販促とこの商店街のイベントのため設置した」「今日これから秋田県北秋田市の物産フェアがある。なかなか地元が使えないでいる」
- 5、瀬尾「契約自治体に望むことは？」  
水野局長「とにかくいろんな売り込みを、紹介を」

イベント会場「ハッピースクエア」の予定表には、福島、秋田、岩手、山形などの自治体、観光協会、物産協会の様々なフェア、イベントが目白押し。

本当ならば、木川健コンサルタントにもお会いし、私の自説「スーパーなどのOBのプロの配置を」についての、その後のご意見をお聞きしたかったが、時間切れで残念。

それにしても、小樽はどんな手を使っても、1位になるべき!!!

!

ミスおたるも「参戦」してPRした昨年10月の出店イベント



## 東京のアンテナショップで15都市中5位

# 小樽物産売り上げ好調

## 来月、1周年記念イベント

地場産品の販路拡大のため出店中の東京・板橋区商店街へのアンテナショップ展開事業で、小樽の物産の売り上げが全国15都市中の5位と健闘している。出店一周年を迎える今年10月には記念イベントを実施、さらなるPRを行う。(平田康人)

店舗があるのは板橋区が集まる一角にある。区のハッピーロード大空き店舗を利用した山商店街振興組合が運営する全国する里ふれあいショップ「とれたて村」。東武東上線池袋駅から三つ目の大森駅から徒歩三分の立地で、五百六十坪のアーケード街に約二百店舗

一万円。山形県最上市、売れ残りのリスタの二百万円、千葉県鴨川市の百五十万円には及ばないが、昨年十月から今年三月の半年間も四位(二百四十万円)と好調だ。売れ筋は黒豆やサケの重ね巻、寒干し棒タラ炊きなど。

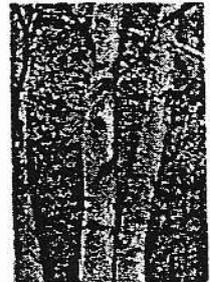
入れ替えはあるが同組合が全品買い取るため、小樽物産協会のまごめでは、全国の百貨店などで小樽の名産品の売り上げは2003年度に6億3600万円だったのが、04年度以降、6億4700万円、8億8200万円、9億6600万円と右肩上がり。07年度は10億5000万円と初めて10億円台を突破し、高い評価を得ている。

△メモ▽

店舗があるのは板橋区が集まる一角にある。区のハッピーロード大空き店舗を利用した山商店街振興組合が運営する全国する里ふれあいショップ「とれたて村」。東武東上線池袋駅から三つ目の大森駅から徒歩三分の立地で、五百六十坪のアーケード街に約二百店舗

# 9・7小樽「白樺樹液セミナー」

白樺は北海道では、何処にでもある木です、  
でも、その樹液となると、まだまだ知られてはいません。  
ほんのり甘く、爽やかな味。まだ、秘められた大いなる可能性。  
その白樺樹液をもっと知り、その利用方法を考えてみませんか。



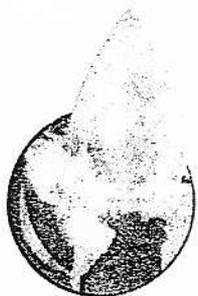
- 1. 日時 2011年9月7日(水) PM 3:00~5:00
- 1. 会場 ホテル武蔵亭 (小樽市朝里川温泉2-686/電話0134-54-8000)
- 1. 参加費 ①事業者=1000円 ②一般=500円 予約不要

セミナー内容 (講演後、座談会形式でお気軽に質問)

講演 白樺樹液の利活用の今とこれから  
北海道大学名誉教授 (森林科学/森林化学)  
国際ニウプ研究所 代表 寺沢 実 先生

報告 白樺樹液からの製品 その他予定・交渉中  
北海道総馬油本舗(有)社長 磯崎 聖剛 氏  
(セミナー開催中にエステ実演を行います)

交流会 (2000円会費) も予定しております。



主催 / LLP 白樺事業組合

アクティブ事務所 石狩市緑苑台東2条1丁目99

電話 090-7659-7349 (瀬尾)

協賛 / (株)小樽観光企画 武蔵亭

協力 / 小樽白樺樹液を楽しむ会

資料 その他 北京商談会資料

	会社名	主な商品名	郵便番号	住所	市外局番	TEL	担当者	ページ
1	(株)北海大和	鮭キムチふりかけ、鮭たまごふりかけ、鮭ごまふりかけ、鮭こんぶふりかけ	065-0064	札幌市東区北10条東16丁目1番17号	011	748-7755		
2	(株)中華札幌	つまみ揚げエビ風味、北海道コーンのつまみ揚げ、カニしゅうまい、エビしゅうまい、ポテトフォンデュ、鮭手毬	003-0873	札幌市白石区米里3条2丁目6-36	011	871-8700		
3	(株)ベイクド・アルル	お豆腐レアチーズ(北海道の豆乳を使ったレアチーズ)、生チョコ、プチシュー	067-0064	江別市上江別464番地9	011	382-8550		
4	(株)北辰フーズ	シャーベリアスタ張メロンゼリーフルラ(FU-15)、シャーベリアスタ張メロンゼリーフルラ(FU1-60)、シャーベリアスタ張メロン(EST-30)、シャーベリアスタ張メロン(EST-2)、シャーベリアスタ張メロンひとくちゼリー、シャーベリアスタ張メロンひとくちゼリー、シャーベリアスタ張メロンひとくちゼリー、シャーベリアスタ張メロンミニ	067-0002	江別市緑町西3丁目1番地1	011	383-3231		
5	(株)飯坂富士商店	カスベカット、すきみたら、棒たらカット、鮭チーズ、干貝柱、ソフト焼帆立貝、ソフト焼いかチーズ、スペシャルチーズ帆立	047-0031	小樽市色内2丁目9番16号	0134	23-2975		
6	(株)小樽飯櫃	たこザンギ、八菜しゅう菜、小樽のあげかまプレミアムブレーン	047-0016	小樽市信香町1-4	0134	050-3099-5512		
7	北海道ワイン(株)	おたる ナイヤガラ(北海道で収穫されたブドウから醸造)	047-8677	小樽市朝里川温泉1丁目130番	0134	34-2181		
8	(株)ソラチ	十勝豚丼のたれ、北海道十勝豚丼のたれ、焼肉のたれ本格塩味、オホーツクの塩焼肉塩だれ(にんにく味)	075-0007	芦別市北7条西4丁目4番地	011	871-2911		
9	藤原製麺(株)	北海道乾燥ラーメン函館塩、北海道乾燥ラーメン札幌味噌、北海道乾燥ラーメン旭川醤油	070-0039	旭川市9条通14丁目左10号	011	644-1115		
10	(株)北海道コクボ	北海道ミルクレーブ(バニラ)	059-1434	勇払郡安平町早来富岡254-8	0145	22-4169		
11	山加製粉(株)	北乃蕎麦御膳ギフト12(4食セット)	061-3241	石狩市新港西1丁目771-3	0133	75-9811		
12	(株)タンゼンテクニカルプロダクト	小樽ザバイロール(ストロベリー、マンゴー、ピーチ)	061-3271	小樽市銭函5丁目52番11号	0133	74-8651		
13	金滴酒造(株)	北の純米酒、特別本醸造白鳳新十津川、上撰金冠金滴	073-1103	樺戸郡新十津川町字中央71-7	0125	76-2341		
14	田中酒造(株)	純米吟醸亀甲蔵、しそりきゅーる、小樽貴醸酒、黄金貴醸酒	047-0031	小樽市色内3丁目2番5号	0134	23-0390		
15	(株)山下水産	生炊きしらすくのみin佃煮、生炊きほたて貝柱、ピリ辛プチ帆立、生姜くのみ、紅鮭燻とば、いくら醤油漬、ほたて干貝柱、ピリから昆布、	048-0404	寿都郡寿都町字大磯75番地	0136	62-2023		
16	小松食品(株)	チョイ辛ほっけ甘露煮	047-0152	小樽市新光1丁目2番2号	0134	54-6233		
17	(有)利尻屋みのや	湯どうふ昆布	047-0027	小樽市堺町4-6	0134	25-4060		
18	(株)カナダ海洋食品	かにおこわ	047-0031	小樽市色内3丁目11番5号	0134	25-5010		
19	日本清酒(株)	千歳鶴 吉翔、千歳鶴 純米大吟醸	060-0053	札幌市中央区南3条東5丁目2番地	090-2697-9510			

	会社名	主な商品名	郵便番号	住所	市外局番	TEL	担当者	ページ
20	(株)兼正阿部製麺	醍醐味ラーメン(醤油、味噌、とんこつ)	047-0156	小樽市桜5丁目6番17号	0134	54-7351		
21	国稀酒造(株)	特別本醸造千石場所、純米吟醸北のきらめき、吟醸雪のかおり	077-0204	増毛郡増毛町稲葉町1丁目17	0164	53-3308		
22	北の誉酒造(株)	ハスカップ梅酒、梅酒、純米大吟醸英姿北の誉、大吟醸極大鳳北の誉	047-0013	小樽市奥沢1丁目21-15	011	223-5526		
23	(株)丸一土井水産	小樽産ほっけフライ、手作りえびフライ、小樽・余市産甘えび唐揚げ、北海道産鮭フライ	047-0047	小樽市祝津2丁目374番地	0134	25-0336		
24	岩田醸造	北海道赤粒(仮称)、北海道白こし(仮称)	060-0033	札幌市中央区北3条東4丁目	011	231-5221		
25	(株)ババラギ	手作り最中	083-0047	中川郡池田町字昭栄209-2	015	572-2600		
26	(株)バイオニアジャパン		061-3271	小樽市銭函5丁目53番4号	0133	72-7135		
27	(株)サンウロコ鱈商会	コラーゲンじゃがぼろ	047-0031	小樽市色内1丁目5番16号	0134	31-5181		
28	ヒルズ・カンパニー(有)	わかさぎの佃煮	061-3245	石狩市生振39番地2	0133	64-1955	岡 茂	
29	(有)石狩屋	帆立干し貝柱(割れ)、チーズ帆立、のしいかハチミツ、帆立干し貝柱、北海つぶ燻油漬、ごまたら、いかくんせい、手焼きさきいか、いかすみさきいか、ごま菓子昆布、がごめ納豆昆布、きざみとろろ昆布、味付帆立(ピロ包装)、帆立ソフト貝柱	061-3282	石狩市花畔2条1丁目114番地	0133	64-8706		
30	(調整中)			石狩市				

資料 その他 現計画にかかる最新の表

表 1 - 1 就業人口の推移

(人、%)

区分	昭和 40 年		昭和 55 年		平成 7 年		平成 12 年 (厚田村、浜益村)		平成 17 年		平成 22 年		
総人口	8,522		33,599		52,209		54,567 (5,167)		60,104		59,443		
就業人口	4,139		14,007		24,665		26,111 (2,596)		28,314		28,109		
就業率	48.6		41.7		47.2		47.9 (50.2)		47.1		47.3		
産業別	第一次産業	2,687	64.9	1,213	8.7	899	3.6	878 (713)	3.4 (27.5)	1,463	5.2	1,610	5.2
	第二次産業	496	12.0	3,912	27.9	7,295	29.6	7,142 (674)	27.4 (26.0)	7,105	25.1	7,700	24.9
	第三次産業	956	23.1	8,873	63.3	16,275	66.0	17,391 (1,209)	66.6 (46.5)	19,008	67.1	21,646	69.9

資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）産業別には産業分別不能を含んでいない

- ・平成 12 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている
- ・平成 22 年は総人口のみ人口速報集計(2011 年 2 月 25 日公表)。網掛け部分は推計値

## 推計値算出方法

本市においては大幅な都市構造の変化、産業構造の変化は平成 12 年から平成 17 年まで見られないと想定。  
平成 21 年工業統計速報（要旨）

- 事業所数、従業者数、製造品出荷額等、付加価値額それぞれ過去最大の下げ幅 -
- 本要旨は、平成 21 年 12 月 31 日現在で実施した工業統計調査結果（4 人以上の事業所）のうち、従業者 10 人以上の事業所についてとりまとめたものである。

&lt; 全体の動向 &gt;

- ・事業所数は 3 年連続の減少、従業者数は 2 年連続の減少、ともに過去最大の下げ幅
- ・製造品出荷額等、付加価値額は 2 年連続の減少、ともに過去最大の下げ幅。製造品出荷額等は 24 産業すべてが減少
- ・有形固定資産投資総額は 2 年連続の減少

&lt; 都道府県別の動向 &gt;

- ・事業所数、従業者数ともに 46 都道府県が減少、1 県が増加
- ・製造品出荷額等は全都道府県で減少

表 2 - 1（経済センサス）の最新版によると、事業者数、従業者数は堅調に伸びている。

以上から、全国的な動向は下がり基調だが、当市は上がり基調とみる。

## 【推計値】

- ・就業人口 28,109 人（経済センサス H21 より）
  - ・就業率 就業人口÷総人口=47.3%
  - ・経済センサス H18 では、従業者数 18,217 これに対し近似年の産業別就業人口計 27,576
  - ” H21 では、従業者数 20,450 これに対し上記比からの推計産業別就業人口計は 30,956
- 推計 30,956 人を H17 ベースの%をかける。推計人数調整後、推計%を算出。

一次産業 1,610 人 5.2%  
 二次産業 7,700 人 24.9%  
 三次産業 21,646 人 69.9%

表 1 - 2 事業所・従業者の推移

(単位: 所、人)

区 分	平成 8 年		平成 13 年 (厚田村・浜益村)		平成 18 年		平成 21 年			
	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者		
総 数	1,733	21,444	1,821 (271)	23,144 (1,761)	2,082	25,525	2,427	28,109		
農 林 水 産 業	9	100	8 (7)	112 (37)	14	157	22	401		
第 二 次 産 業	鉱 業	1	8	1 (3)	8 (34)	2	11	2	14	
	建 設 業	288	2,691	280 (29)	2,589 (289)	289	2,561	388	2,682	
	製 造 業	190	4,291	204 (8)	4,520 (64)	202	4,579	231	4,562	
	小 計	479	6,990	485 (40)	7,117 (387)	493	7,151	621	7,258	
第 三 次 産 業	電 気 ・ ガ ス ・ 熱供給・水道業	5	188	5 (3)	109 (9)	4	88	3	72	
	情 報 通 信 業	102	2,768	137	3,731	14	296	17	144	
	運 輸 業			(13)	(95)	141	3,897	186	5,375	
	卸 売 ・ 小 売 業	622	6,262	622	6,197	480	5,096	535	5,455	
	飲食店、宿泊業			(93)	(319)	195	988	235	1,160	
	金 融 ・ 保 険 業	22	167	22 (2)	175 (6)	25	166	32	204	
	不 動 産 業	16	117	19 (0)	75 (0)	16	63	55	324	
	サ ー ビ ス 業	医療、福祉	464	4,413	508 (98)	5,029 (728)	148	2,264	155	2,459
		教育、学習支援業					88	1,016	84	995
		複合サービス業					33	390	26	243
学術研究、専門・ 技術サービス業								60	360	
生活関連サービ ス業・娯楽業		406					3,366	197	1,758	
サービス業 (他に分類なし)					174	1,315				
公 務	14	509	15 (15)	599 (180)	25	587	25	586		
小 計	1,245	14,354	1,328 (224)	15,915 (1,367)	1,575	18,217	1,784	20,450		

資料：事業所統計（平成 3 年迄 7 月 1 日現在）

事業所・企業統計調査（平成 8 年以降平成 18 年迄 10 月 1 日現在、本調査 5 年毎）

経済センサス（平成 21 年以降 7 月 1 日現在 3 年毎）

・平成 13 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村) の合計

・平成 18 年は 3 市村の合併により合算されている

・産業分類項目に変更がある

表 2 - 1 専業・兼業別農家戸数の推移

(単位：戸、%)

区分	総数	自給的農家		専業農家		第一種兼業農家		第二種兼業農家	
		実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
昭和 60 年	575	-	-	234	40.7	109	19.0	232	40.3
平成 2 年	516	-	-	174	33.7	147	28.5	195	37.8
平成 7 年	447	-	-	151	33.8	134	30.0	162	36.2
平成 12 年 (厚田村・浜益村)	391 (381)	47 (86)	12.0 (22.6)	130 (98)	33.3 (25.7)	119 (105)	30.4 (27.6)	95 (92)	24.3 (24.1)
平成 17 年	611	118	19.3	198	32.4	175	28.7	120	19.7
平成 22 年	528	120	22.7	237	44.9	90	17.1	81	15.3

資料：農業センサス

経営耕地面積が 30a 未満、農産物販売金額 50 万円未満の農家を指し、専業、兼業農家といった販売農家以外を言い、平成 12 年より集計をする

- ・平成 12 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村) の合計
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 2 主要農作物の作付面積の推移

(単位：h a)

区分	水稻	麦類	いも類	豆類	野菜	果樹	工芸作物	飼料作物
平成 14 年	711	657	138	95	299	-	3	351
平成 16 年	688	731	135	57	291	-	7	474
平成 17 年	1,494	895	167	80	325	8	99	453
平成 18 年	1,467	796	132	58	296	8	100	440
平成 19 年	1,466	741	133	29	295	8	93	517
平成 20 年	1,450	776	150	41	329	8	83	644
平成 21 年	1,443	812	134	34	339	8	87	705
平成 22 年	1,442	852	144	34	333	8	78	386

資料：石狩市企画経済部農林水産課

- ・平成 14, 16 年は旧石狩市
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 3 農業取扱高の推移

(単位：百万円)

区分	米	麦類	いも類	豆類	野菜	果樹	工芸作物	飼料作物	畜産
平成 14 年	637	331	168	47	1,112	-	2	18	201
平成 16 年	546	386	180	19	1,074	-	8	20	237
平成 17 年	1,101	467	199	21	1,087	6	78	20	357
平成 18 年	989	383	180	11	1,224	2	76	20	399
平成 19 年	965	138	158	14	1,264	3	32	22	359
平成 20 年	1,137	91	181	20	1,416	1	35	25	316
平成 21 年	980	110	272	13	1,314	1	31	9	48
平成 22 年	948	114	305	6	1,253	2	19	8	48

資料：石狩市企画経済部農林水産課

- ・平成 14 年・16 年は旧石狩市
- ・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている
- ・「畜産」は、平成 14～20 年までは、生乳および和牛の取扱高。平成 21 年以降は和牛のみ。

表 2 - 4 いしかり地物市場（石狩市樽川）

区 分	平成 10 年	平成 12 年	平成 15 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
開設 期間	6/21 ~ 11/22	6/17 ~ 11/12	6/23 ~ 11/23	5/17 ~ 11/26	5/17 ~ 11/23	5/9 ~ 11/30	4/24 ~ 11/30
開設 時間	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 12:00	9:00 ~ 15:00	9:00 ~ 15:00	9:00 ~ 15:00	9:00 ~ 17:00
開 設 日	土・日曜日	月曜日以 外	月曜日以 外	無休	無休	無休	無休
販 売 額	274 万 5 千円	973 万円	796 万 4 千円	2,181 万 4 千円	2,919 万 7 千円	4,282 万 2 千円	6,585 万 1 千円

資料：JA いしかり、  
JA いしかり花畔倉庫において開設

表 2 - 5 その他の直売所

直売所名	石狩観光センター	来い来い番屋の生鮮広場	望来パークゴルフ場販売所	浜益温泉直売所
開設期間	通年	3/20～12/14	5/中～10/下	4/下～10/下
開設時間	9:00～18:00	8:00～14:00	10:00～15:00	11:30～17:00
開設日	無休	水～日曜日	無休	土日祝祭日
販売額	平成 20 年度	197 万 6 千円	44 万 1 千円	-
	平成 21 年度	424 万 4 千円	-	-
	平成 22 年度	367 万 5 千円	-	-

資料：石狩市企画経済部農林水産課・商工労働観光課

表 2 - 6 漁家戸数の推移

(戸、%)

区 分	漁家戸数	専 業		兼 業		組 合 員 準
平成 7 年	66	65	98.5	1	1.5	64 2
平成 12 年	53	52	98.1	1	1.9	52 1
平成 16 年 (厚田・浜益村)	59 (100)	58 (95)	98.3 (95.0)	1 (5)	1.7 (5.0)	58 1 (98 2 )
平成 17 年	158	152	96.2	6	3.8	156 2
平成 18 年	156	150	96.2	6	3.8	154 2
平成 19 年	163	157	96.3	6	3.7	161 2
平成 20 年	158	153	96.8	5	3.2	156 2
平成 21 年	148	143	96.6	5	3.4	146 2
平成 22 年	142	137	96.5	5	3.5	140 2

資料：石狩湾漁業協同組合、平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている 法人含む  
 ・平成 16 年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計

表 2 - 7 主要漁業生産量及び生産高の推移 (単位: トン、千円)

区分	平成 19 年		平成 20 年		平成 21 年		平成 22 年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
サケ	968	368,639	606	271,219	854	318,056	864	282,572
ニシン	760	380,562	567	282,696	1,242	552,645	1,036	366,123
タコ	146	76,662	150	78,292	163	80,816	121	53,320
カレイ	132	46,678	143	50,125	104	34,079	170	45,847
ナマコ	93	252,320	94	261,793	79	233,156	61	254,158
ヒラメ	50	59,750	52	57,976	48	44,033	57	51,615
ハタハタ	22	13,385	101	58,468	31	14,594	41	23,555
シャコ	39	54,178	37	56,458	38	53,648	19	38,380
ソイ	27	17,960	32	19,285	13	6,912	8	3,607
カスベ	17	6,960	16	8,980	13	7,221	19	11,519
イカ	15	7,576	3	1,458	10	4,872	17	7,558
ウニ	4	32,243	10	46,797	6	24,561	13	15,127
その他の魚類	102	43,623	43	25,739	47	16,159	90	19,868
ホタテ	1,260	368,116	1,355	394,951	1,041	311,068	1,198	309,024
ホッキ	98	33,896	88	30,402	86	26,602	79	25,778
その他の貝類	3	13,479	3	9,073	4	7,049	15	6,984
昆布類	7	8,615	11	12,701	8	8,198	4	4,277
ワカサギ	61	16,910	71	24,831	124	39,434	60	20,914
その他			0	155	0	53	0	74
合計	3,821	1,819,435	3,382	1,691,399	3,911	1,783,156	3,872	1,540,300

資料: 石狩湾漁業協同組合

・平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている

表 2 - 8 石狩湾漁業協同組合朝市（直売）データ (kg、千円)

	朝市データ		直売データ					
	平成 14 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 22 年度	
年度	平成 14 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 22 年度	
地区	石 狩		石 狩 (厚 田)		石狩、厚田		石狩、厚田、浜益	
期間	4 / 6 ~ 7 / 7		通 年		通 年		地区により異なる	
時間	6 時 ~ 14 時		-		-		地区により異なる	
売上	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
	63,633	29,328	56,493 (151,291)	28,557 (82,878)	128,091	72,656	202,671	91,060

資料：石狩湾漁業協同組合 平成 17 年は 3 市村の合併により合算されている  
平成 16 年度以降朝市としての集計なし

表3 - 1 石狩湾新港地域立地企業一覧

平成23年6月末現在						
区 分	立 地 企 業			操 業 企 業		
			延べ社数			延べ社数
工 業 地 区	447社	3組合	496社	344社	3組合	393社
住宅関連地区	254社	1組合	267社	201社	1組合	214社
建設関連地区	91社		91社	64社		64社
機械金属関連地区	37社	2組合	73社	35社	2組合	71社
生活関連地区	58社		58社	37社		37社
先端技術関連地区	1社		1社	1社		1社
ユーティリティ-地区	6社		6社	6社		6社
流 通 関 連 地 区	120社	2組合	214社	98社	2組合	192社
管 理 支 援 地 区	12社		12社	10社		10社
管理業務地区	7社		7社	6社		6社
産業支援地区	2社		2社	2社		2社
生活支援地区	3社		3社	2社		2社
港 湾 地 区	7社	2組合	17社	6社	2組合	16社
港湾関連地区	3社	2組合	13社	3社	2組合	13社
中央地区	4社		4社	3社		3社
合 計	586社	7組合	739社	458社	7組合	611社

資料：石狩開発（株）（第3セクター：北海道、小樽市、石狩市）

表3-2 製造業の事業所・従業員数・荷額等の推移

(単位：事業所、人、百万円)

区 分	平成 8 年			平成 12 年			平成 16 年			平成 18 年			平成 21 年		
							石 狩 市 (厚田村・浜益村)								
	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額	事業所	従業員	出荷額
食料品製造業	14	614	11,111	16	950	13,925	17 (3)	1,378 (41)	29,996 (254)	21	1,305	29,720	22	1,693	38,420
飲料・たばこ・飼料製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14	-	1	12	-
繊維工業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-
衣服・その他の繊維製品製造業	2	-	-	1	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-
木材・木製品製造業	11	368	4,645	7	305	4,435	7	285	4,577	7	303	4,481	7	209	5,939
家具・装備品製造業	13	265	4,377	10	105	1,371	12	208	3,136	9	183	3,053	9	160	2,412
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	-	-	1	-	-	2	25	-	2	26	-	2	24	-
出版・印刷関連産業	3	13	103	4	98	1,637	3	110	-	4	124	4,160	2	110	-
化学工業	3	35	1,582	3	-	-	3	19	-	3	21	-	1	7	-
石油・石炭製品製造業	3	34	1,106	3	19	859	2	13	-	2	12	-	2	12	-
プラスチック製品製造業	8	415	11,034	9	325	6,116	14	358	6,497	14	348	6,953	11	284	5,316
ゴム製品製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なめし革・同製品・毛皮製造業	-	-	-	3	26	118	-	-	-	-	-	-	-	-	-
窯業・土石製品製造業	11	216	6,250	5	123	2,461	7	109	2,828	5	93	-	5	91	1,793
鉄鋼業	4	86	2,237	4	83	2,295	3	66	2,764	3	115	4,106	2	100	-
非鉄金属製造業	1	-	-	1	-	-	1	10	-	1	10	-	2	22	-
金属製品製造業	54	1,251	29,920	53	1,319	31,661	50	1,246	35,977	50	1,176	41,169	50	1,216	39,722
一般機械器具製造業	10	242	4,772	11	199	6,713	11	217	4,743	12	248	4,551	11	219	5,171
電気機械器具製造業	4	170	3,096	3	85	1,506	1	8	-	2	66	-	1	66	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電子部品・デバイス製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
輸送用機械器具製造業	1	-	-	3	72	1,500	2	45	-	3	53	2,304	3	57	1,063
精密機械器具製造業	1	-	-	1	-	-	1	75	-	1	71	-	-	-	-
その他製造業	5	91	2,707	6	119	2,279	5	89	2,398	4	75	2,304	4	107	1,560
合 計	149	3,968	85,354	144	3,969	79,930	142 (3)	4,275 (41)	100,639 (254)	144	4,243	109,583	136	4,400	115,342

資料：工業統計調査（従業員4人以上の事業所、各年12月末現在）は数字が秘匿されているもの  
・平成12年の上段：石狩市、下段：(厚田村、浜益村)の合計  
・平成17年は3市村の合併により合算されている

表 3 - 3 石狩市発注工事の市内建設事業者受注状況

単位：千円

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
建築	679,974	498,972	163,816	681,749	473,919
土木	838,171	642,028	464,804	1,046,820	659,997
管工	168,275	416,763	291,838	344,107	198,591
委託	553,005	526,639	556,352	595,898	603,612
計	2,239,425	2,084,402	1,476,810	2,668,574	1,936,119

石狩市建設事業協会調べ（平成 20 年度は 2 月末現在）

表 4 - 1 商業の推移

(店、人、百万円、m<sup>2</sup>)

区 分	平成 11 年度	平成 14 年度	平成 16 年		平成 19 年度	
			石狩市	厚田区・浜益区		
総額	事業者数	372	393	389	63	423
	従業員数	4,324	4,495	4,404	187	4,686
	年間販売額	179,113	167,818	186,421	1,807	167,317
小売業	事業者数	256	275	264	61	316
	従業員数	2,312	2,612	2,321	181	3,001
	年間販売額	36,708	41,365	41,881	x	45,007
	売場面積	39,651	42,137	42,687	x	60,893
卸売業	事業者数	116	118	125	2	107
	従業員数	2,012	1,883	2,083	6	1,685
	年間販売額	142,405	126,462	144,540	x	122,310

資料：商業統計調査（毎年：6月1日現在）

本調査は5年毎（本調査の2年後に簡易調査）6月1日

表 4 - 2 小売業経営水準の比較

(人、百万円)

区 分	石 狩 市			札 幌 市			北 広 島 市			北 海 道		
	H14	H16	H19	H14	H16	H19	H14	H16	H19	H14	H16	H19
1店当たり 従業者数	9.50	8.79	9.05	9.70	9.98	10.35	10.79	12.45	12.46	7.22	7.37	7.59
1店当たり 年間販売額	150.4	158.6	142.4	189.6	192.8	198.4	159.5	183.1	202.2	130.8	134.4	138.3
1人当たり 年間販売額	0.742	0.745	0.734	1.234	1.249	1.128	0.622	0.733	0.784	1.171	1.156	1.098
商業人口	35,313	36,224	40,974	1,932,552	2,008,855	1,943,679	31,311	37,997	43,629	5,699,435	5,678,328	5,606,596
小売吸引率	0.634	0.644	0.668	1.053	1.080	1.027	0.531	0.634	0.712	1.000	1.000	1.000

資料：商業統計調査（毎年6月1日現在） 住民基本台帳（毎年6月1日現在）

商業人口 = 市内年間小売販売額 / 道民一人当たりの年間小売販売額

道民一人当たりの年間小売販売率 = 全道年間小売販売額 / 全道住民基本台帳人口

小売吸引率 = 商業人口 / 行政人口(住民基本台帳人口)

表4 - 3 主な施設、イベントの観光客入込数

(人)

区 分		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
旧 石 狩 市	石狩浜海水浴場	371,850	189,400	191,440
	石狩温泉「えりの湯・番屋の宿」	191,246	165,386	113,571
	はまなすの丘(ビジターセンター)	41,774	38,409	40,484
	さけまつり	73,000	64,500	31,700
厚 田 区	海水浴場	29,674	34,179	23,038
	厚田公園・キャンプ場	41,864	42,661	30,804
	戸田記念墓地公園	345,807	378,446	415,244
	シーサイドみなくるパークゴルフ場	28,964	31,676	27,775
	ゴルフ場	128,775	126,634	120,705
	厚田ふるさとあきあじ祭り	12,000	15,000	12,000
浜 益 区	川下海水浴場・キャンプ場	84,906	42,456	32,140
	白銀の滝	3,655	18,352	13,892
	浜益温泉	40,861	69,242	65,070
	浜益ふるさと祭り	5,000	5,500	6,050
	サケ有効利用調査	3,847	3,745	4,158
観光入込客合計		1,403,223	1,225,586	1,128,071

資料：石狩市企画経済部商工労働観光課（各年度末現在）